

JUKI

Mind&Technology



CONTENTS

JUKIはどんな会社?

- 4 事業領域
- 6 JUKI製品を使って作られるもの
- 8 JUKIの企業価値創造

JUKIが目指すもの

- 12 社長インタビュー

JUKIの事業

- 18 縫製機器事業
(工業用ミシン事業、家庭用ミシン事業)
- 24 産業装置事業
- 26 グループ事業等
(グループ事業、スリーブバスター、データエントリー装置)

企業価値創造を支える力

- 28 ステークホルダーとともに
- 34 3つの「経営の重点」の取り組み
- 38 環境に対する取り組み
- 44 ガバナンス

データセクション

- 46 財務データ
- 50 沿革
- 52 JUKIのグローバル拠点
- 54 会社概要および株式情報

編集方針

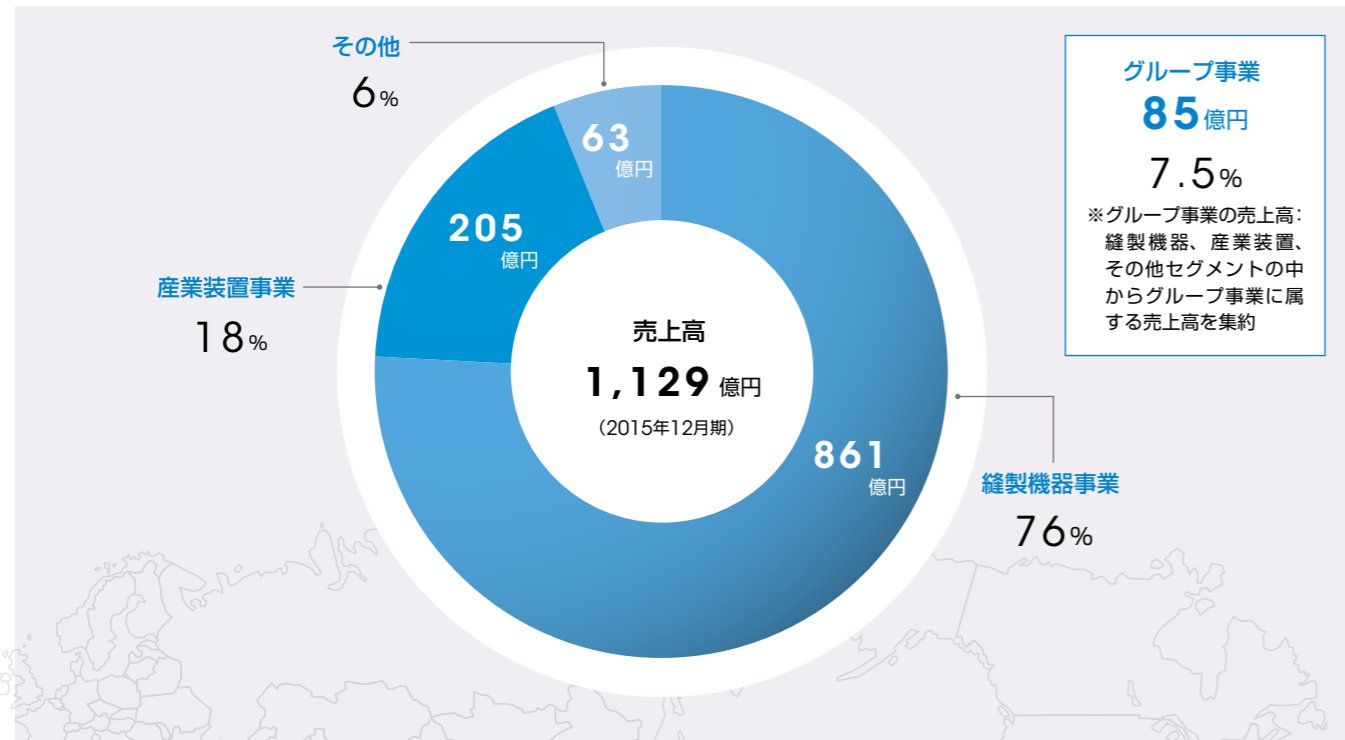
JUKIコーポレートレポート2016は、会社案内と環境報告書の要素を中心に1冊に統合した報告書です。今回発行する本レポートでは、当社グループの中長期的価値創造について株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様にご理解いただくため、ESG（環境、社会、ガバナンス）情報を拡充しています。

見直しに関する注意事項

本レポートに記載されている、JUKI株式会社および連結子会社の計画、目標、戦略などは、編集時点における見直しであり、これらは、入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいています。従って、これらの業績見直しは、将来の業績を保証するものではなく、さまざまな重要な要素により、大きく異なる結果になることがあります。

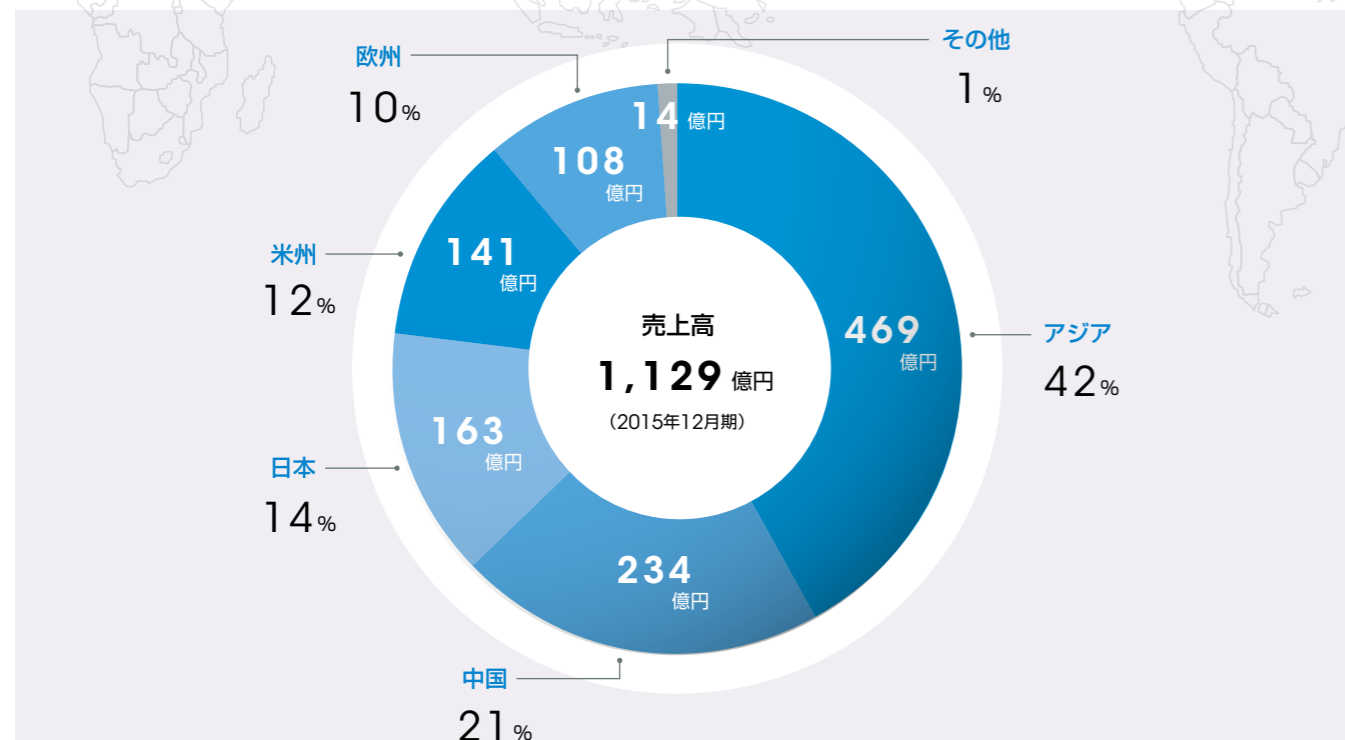
●事業別売上高割合

JUKIは、主力の縫製機器事業を中心に、先進の技術・価値ある技術で世界のものづくりを支えています。



●地域別売上高割合

世界約180カ国をカバーする販売・サービスネットワークで、世界中のお客様から強い支持をいただいています。



縫製機器事業

工業用ミシン



大量生産を目的とした縫製工場などで使われるミシンを開発・製造・販売する事業です。最先端トレンドを提案するメゾンブランドからカジュアルアパレル製品、スポーツ用品、カーシートなど、縫製が伴うあらゆる分野の製品の“縫い”を実現しています。

家庭用ミシン



一般家庭およびプロユースのためのミシンを開発・製造・販売する事業です。工業用ミシンで培った技術を用い、こだわりの縫製品質と性能で、快適なソーイングライフをサポートしています。

産業装置事業

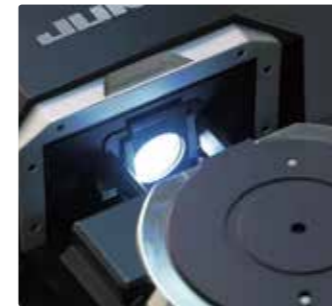
産業装置



エレクトロニクス製品の電子部品を実装する装置、印刷機、検査機などの工業用途の機械装置を開発・製造・販売する事業です。私たちの生活や産業と深く結びつき、欠かすことができないエレクトロニクス製品の生産を支えています。

グループ事業等

グループ事業



JUKIグループ各社が、主要製品を生産する中で培った開発・設計・生産・生産管理のノウハウを活かして、さまざまな製品の製造・加工などを受託する事業です。精密鑄造・精密加工・板金加工・金型製造などのものづくり技術を組み合わせ、お客様が望まれる製品として具現化します。

スリープバスター



居眠り運転警告装置やそのデータを活用し、安全・安心な走行の習慣化を促進するための事業です。過労運転防止や交通事故の低減に貢献しています。

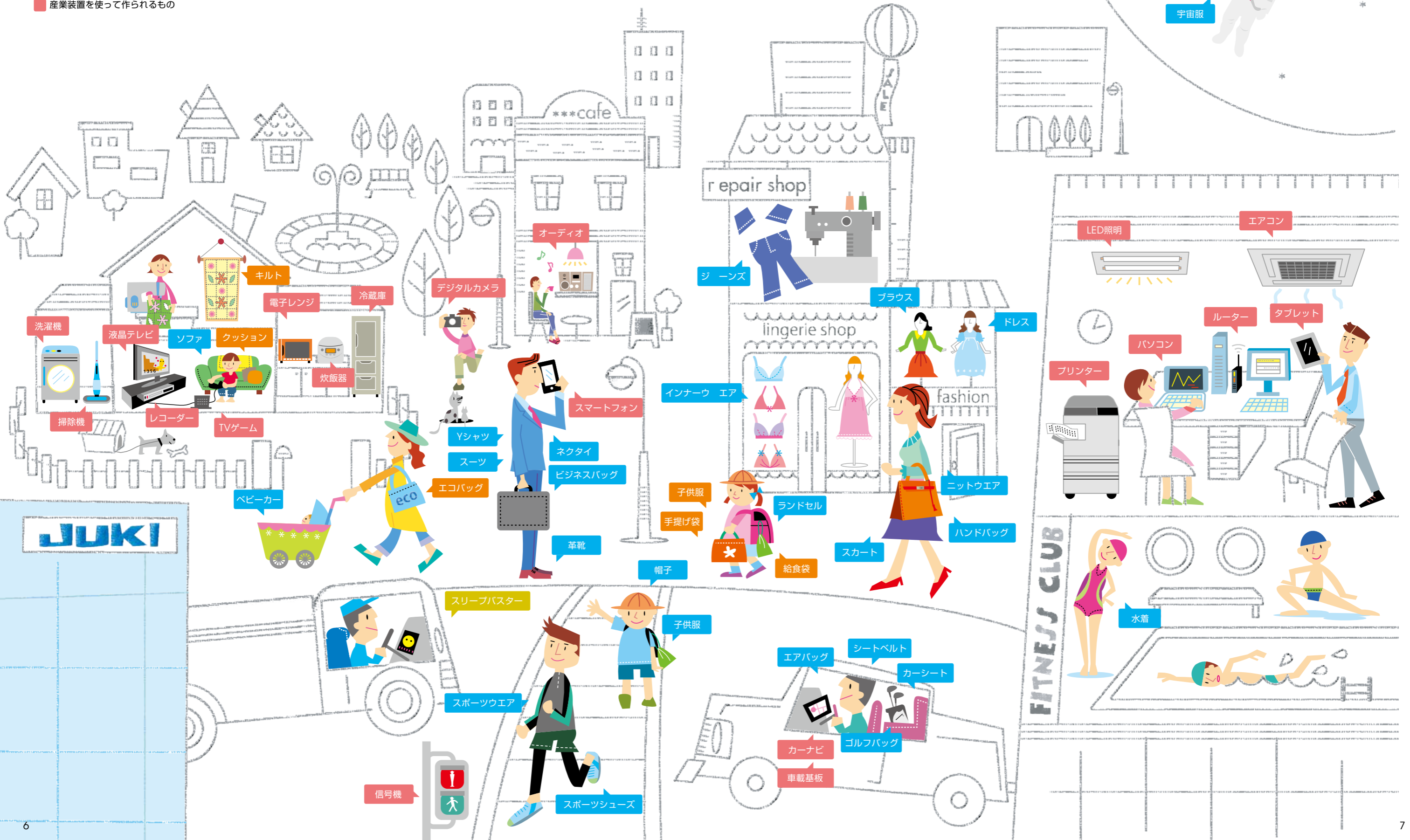
データエントリー装置



工夫された入力装置で、大量のデータを処理する情報処理産業をサポートする事業です。生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界のニーズに対応しています。

JUKIの製品を使って、こんな身近な“もの”が生まれています

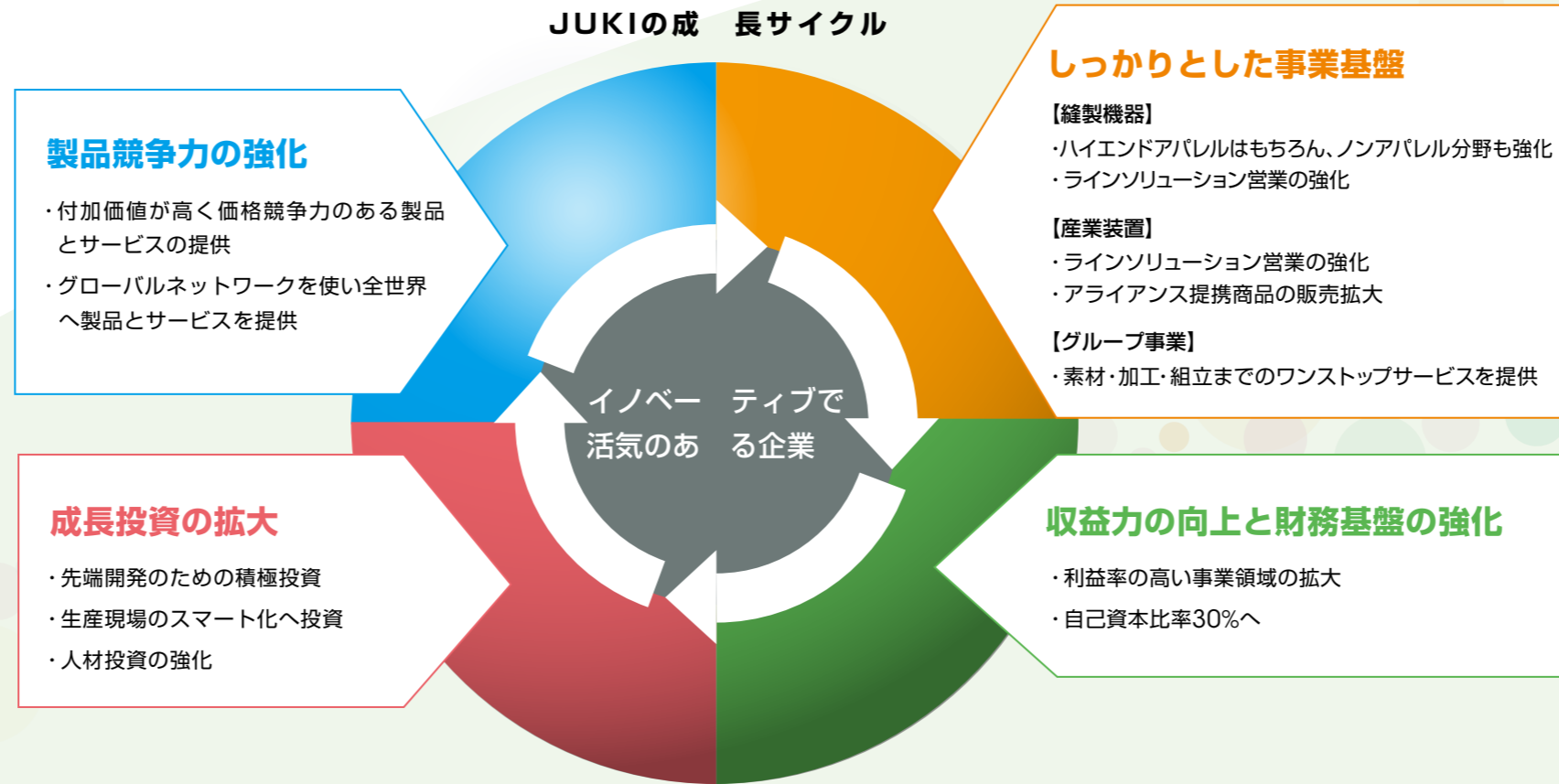
- 工業用ミシンを使って作られるもの
- 家庭用ミシンを使って作られるもの
- 産業装置を使って作られるもの



JUKIの企業価値創造フロー（ビジネスモデル）

JUKIは、3つの「経営の重点」により、お客様、お取引先、従業員、株主・投資家、社会といったステークホルダーに対し、企業価値創造に取り組んでいます。
 そして、JUKIの成長サイクルにより、イノベティブで活気のある企業を実現し、JUKIの企業価値創造の力をさらに高めていく取り組みを行っています。

JUKIの成長サイクル



3つの「経営の重点」

- 品質経営の進化
- イノベティブで活気のある人と企業づくり
- グローバル経営の進化

企業価値創造プロセス ▶ P10-11

JUKIは、開発、生産、販売、技術サポート全てを有し、それぞれが密接に連携することで、企業価値を提供します。

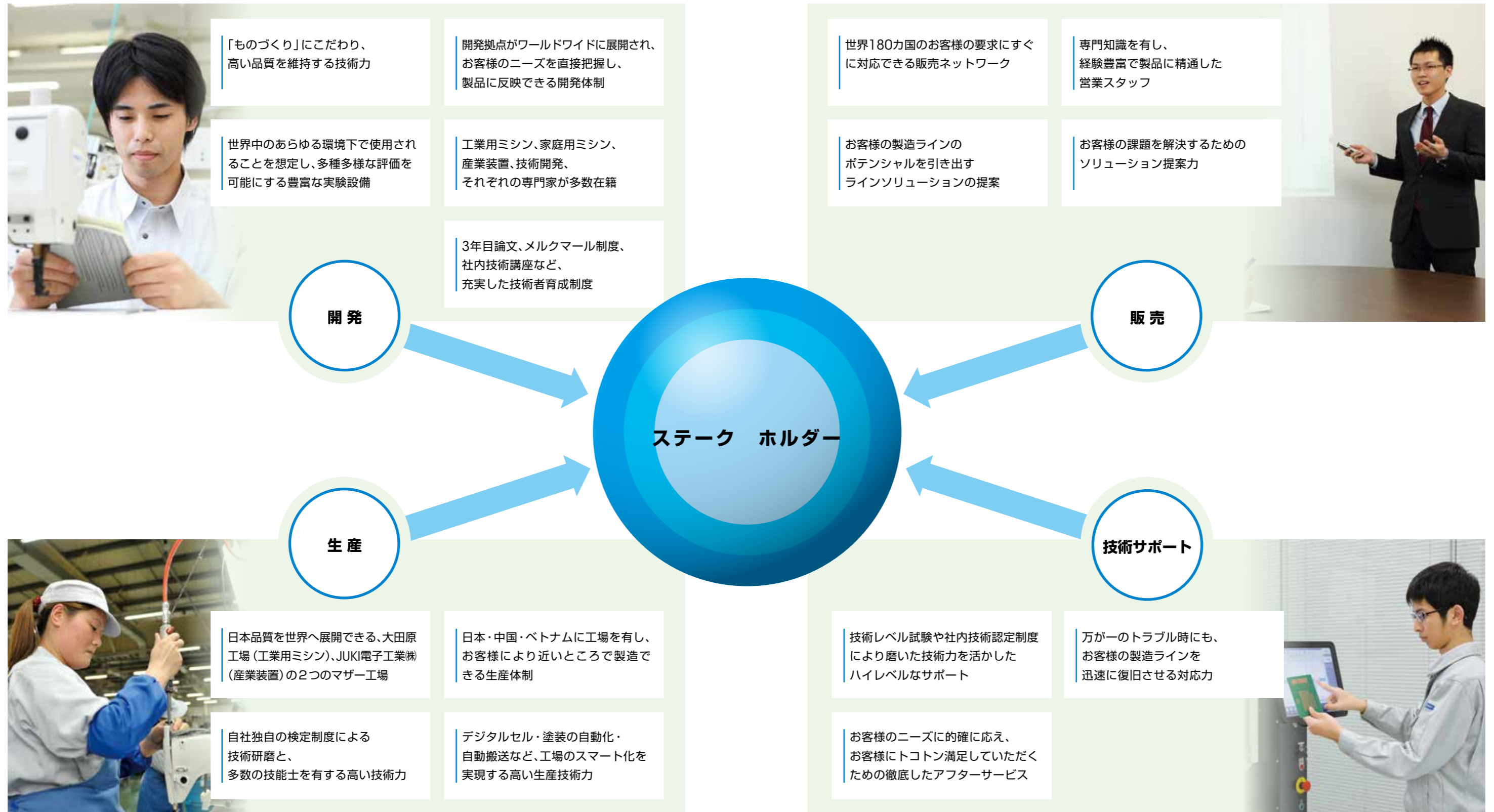


ステークホルダーへの企業価値創造

- お客様**
 - ・競争力向上への貢献
 - ・トータルなソリューション提案
 - ・グローバルなサポート など
- お取引先**
 - ・共存共栄
 - ・切磋琢磨し、ともに成長していける関係の構築 など
- 従業員**
 - ・活気のある組織・風土
 - ・従業員満足の向上 など
- 株主・投資家**
 - ・財務体質の改善
 - ・株主価値向上
 - ・安定的な配当 など
- 社会**
 - ・地域社会との交流
 - ・他国の文化を尊重し、現地の発展に貢献
 - ・環境問題への取り組み など

企業価値創造プロセス（JUKIの強み）

JUKIは創立以来、「ものづくり」を社業の中心に据え、新たな価値を市場に提供し続けています。
 JUKIの強みである「開発」、「生産」、「販売」、「技術サポート」という企業価値創造プロセスを通し、
 これからも価値のある技術、製品、ソリューション、サポートを追求し、ステークホルダーへ提供していきます。





代表取締役社長
清原 晃

社長インタビュー

お客様との関係深化、事業基盤の強化により、JUKIのさらなる成長を加速する

JUKIの企業価値向上の取り組みについて、JUKI社員が清原社長にインタビューをしました。競争が激化するグローバル市場におけるJUKIの成長戦略とは、どのようなものなのでしょうか。

●インタビュー



JUKIの前進を支えるのは強いグローバル競争力

—2015年度の業績についてお話しください。

2015年度は売上高が1,129億円、経常利益57億円、当期純利益が39億円で、増収減益という結果となりました。売上拡大などにより株主の皆様への配当は実施することができたため、ますますの成績と言えそうです。

ただ、8月頃から中国経済が減速して設備投資が減退しました。これにより、特に産業装置事業の売上が伸び悩みました。縫製機器事業は新興国で売上が拡大し、グループ事業も比較的順調に売上を伸ばしたものの、全体で見ると利益が減少したことは今後の大きな課題です。

この結果の背景には市場での競争激化があります。工業用マシンやマウンタの分野でも市場競争が一段と厳しくなっており、これが価格競争、ひいては減益という結果につながりました。

—各事業領域の状況についてお聞かせください。

いずれの分野も、グローバル競争における収益基盤を築くため、事業領域の拡大に取り組みました。

まず縫製機器事業の工業用マシンですが、世界トップシェアであるアパレル分野に加え、自動車やカバンといったノンアパレルの分野を積極的に拡大しています。また、中国からの産地移転に対応してアジア市場での体制を強化しつつ、次なる成長マーケットと見込むアフリカ（エチオピア、南アフリカ）に駐在員事務所を開設しました。中南米でも成長顧客に対応するなどエリア戦略を実行しています。

一方、家庭用マシンは、規模は小さくとも「輝きのある事業」を目指して根気よく取り組んでいます。JUKIが強みとしている職業用マシン、小型ロックマシン、キルト用マシンでも、世界中にユーザーを持つとは考えていません。ターゲットとする地域の顧客層にレベルの高いアドバイスをし、JUKIのマシンを使っただけでなく、これが生き残りのポイントになると思っており、そこへの投資は惜しまない考えです。

産業装置事業ではマウンタや検査機、印刷機といった製品を投入しました。またアライアンスによって製品ラインナップを強化し、ラインソリューションの提案によってお客様の実装ライン全体の生産性が向上できるよう取り組みました。他方、中国やインド、欧米などの海外市場での成長戦略も進めています。

グループ事業は、円安などによって日本のものづくり回帰が進展し、精密加工部品や完成品のアウトソーシング需要が大き



お客様をトータルで支える ラインソリューションによって 成長のサイクルが回転していく

くなりました。こうした状況下、JUKI本社に「統括部」、各グループ会社に「分室」を設置し、一体運営を行う体制を整えました。景気の動きに影響されやすい縫製機器、産業装置の各事業を補完する第三の事業として、収益の柱に育てる取り組みを今後も続けます。

いずれの事業も、エリアを含め、事業領域の拡大によってお客様を増やしていこうという戦略を取っている点で共通しています。そして、特に海外事業ではビジネスの各場面での即断即決、拠点ごとのノウハウの共有を進めていかなければなりません。2015年秋には、JUKIシンガポールが、そうした機能を担う地域

本社としてスタートしました。ここを軸に、アジア各国で現場第一主義を実践していきます。

**「マスカスタマイゼーション」にも対応できる
技術革新を成し遂げ、
「全てJUKIに頼みたい」を実現しよう**

——2016年度に向けた取り組みについてお聞かせください。

「21世紀を生き抜くグローバルなものづくり企業～イノベティブ（革新的）で活気のある社員が力を合わせ、変化に対応し強い事業を創り出していく企業～

強い事業を創り出していく企業～」というビジョンの下、3つの基本方針の実践によって成長のサイクルを回していくために、今年度も全力で取り組んでいきます。

大きな方向性としては、お客様の工場全体の生産性を高めるラインソリューションを実現し、競合との差別化を進めます。

JUKIは新たな機能を搭載した新製品を次々に開発し、市場に投入していますが、単品の設備だけでは差別化することは難しく、今後は、工場診断やコンサルテーションのノウハウをもとにお客様に的確な提案をし、工場全体の生産性向上をお手伝いしていきたいと考えています。

例えば縫製機器事業では、ソーイング以外のボンディング（貼合せ）、プリンティング（印刷）、カッティング（裁断）といったノンソーイング工程の設備も販売し、工場全体の効率化に役立つ提案をしたい。産業装置事業でも、ISM（自動部品倉庫）や搬送ラインにAGV（無人搬送車）を導入するなど、実装ライン以外で手間が掛かっているところを省力化・省人化の提案をすることで、全体的な生産性向上がはかれると見込んでいます。併せてお客様の従業員の働きやすさも高まるでしょう。このような「スマートファクトリー」を、お客様と共に作り上げていきたいと思っています。

——私たちはそれをどのように実現していくべきでしょうか。

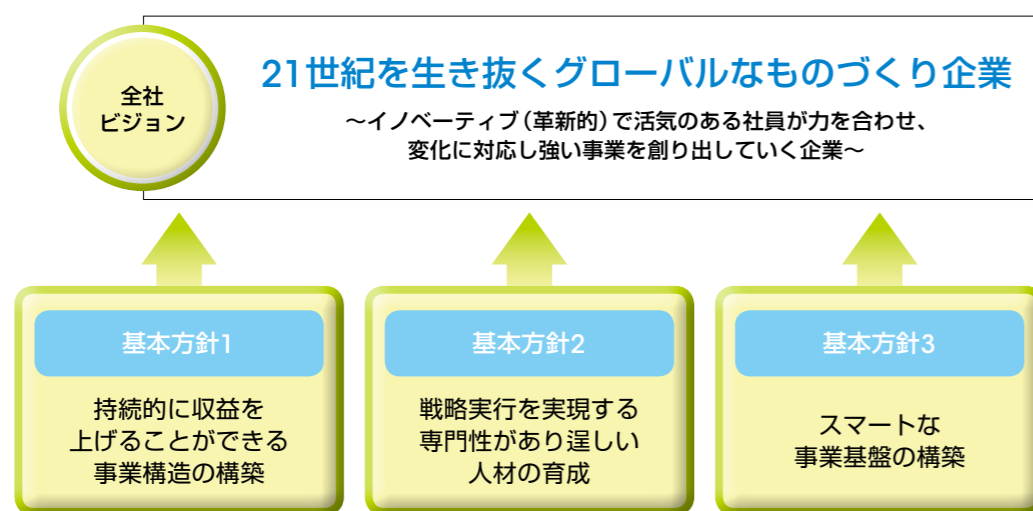
会社経営には大きく二つの考え方があります。一つは単一の

領域を徹底的に極めるタイプで、もう一つは事業全体に関わる製品を総合的に扱うタイプです。いずれも強みと弱みがありますが、JUKIは後者を目指します。先に述べたように、時代の流れは確実にこちらにありますので、これからJUKIの本領を発揮する時と言えるでしょう。だからこそ、営業はもちろん開発や生産の担当者も、インダストリアル・エンジニアリングやプラント・エンジニアリングなどに対する知見を深め、ラインソリューションのプロフェッショナルとしてお客様の期待にきちんと応えてほしいと思います。

もちろん、一人があらゆる製品に精通することは困難ですので、部門を越えたコミュニケーションによって一人ひとりが持っているノウハウの共有や連携をしていかなければなりません。

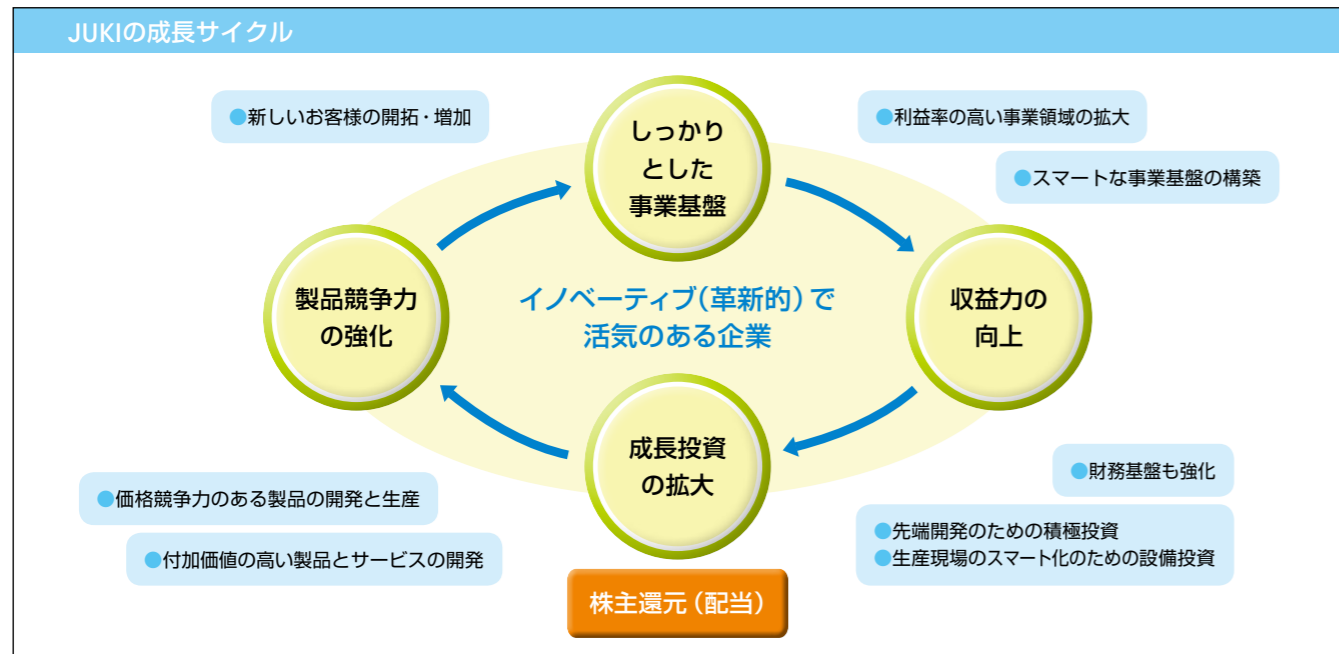
また、お客様のご要望には「say yes」を貫いてほしい。これまでJUKIは自社開発の製品を主に提供する営業展開をしてきました。そのため、工場設備に関するお客様のニーズに対応した十分な提案ができないこともしばしばあったのです。しかし現在は、自社にない製品はアライアンスによって調達しお客様に提供する、カスタマーファーストの考え方に切り替わり始めています。お客様のご要望を製品単位でなくトータルで受け、全体設計の下でライン全体の装置やシステムを提案していく——それが、これからJUKIが実現していくべきラインソリューションなのです。これを推進することで世界のお客様との関係が深まり、ひいては顧客基盤の強化、成長サイクルの好循環へとつながっ

中期経営計画のビジョンと基本方針





一人ひとりの力をつなぎ
大きな力に変え、
柔軟な連携による
イノベーションの力が、
JUKIの未来を開く



ていくのです。

他方で、製品一つひとつの品質を追求していくことも忘れてはならない大事なことです。ものづくりの原点は品質にあります。工業用ミシンだけでなく、マウンタも家庭用ミシンも、「さすがJUKI」と言われるよう、絶えず機能と品質を極めていきたいと思えます。

——経営環境が大きく変化していますが、JUKIはどのように対応していくのでしょうか。

直近では、国内外の製造業の設備投資は総じて慎重な動向ですが、強い企業・成長企業においては生産性向上や省人化への投資はますます進むものと見ています。JUKIはこうした動きにすばやく対応し、厳しい状況にあってもしっかりとした事業基盤の構築を仕上げていきます。

そのポイントとなるのが、自動化、ロボット化、デジタル化、そしてシステム化などにより全体を統制したラインソリューションです。お客様から「全てJUKIに頼みたい」と言われるために、これらの技術開発に積極的に取り組みます。

また、当社に対するご要望はお客様ごとに異なります。これまでの海外の多くのお客様は大量生産すなわち「マスプロダクション」を展開してきましたが、近年は消費者の価値観の多様化などにより、小ロット多品種すなわち「マスカスタマイゼーション」を求めるお客様が増えてきています。今後はJUKIも、お客様の「マスカスタマイゼーション」の設備ニーズに対応できるビジネスモデルへ切り替えていかなくてはなりません。

**ダイバーシティ&インクルージョン
(多様性の受容)を追求することで、
JUKIはさらに輝く会社になる**

——JUKIは、企業価値向上に取り組むことで、将来どのような姿へと成長していくのでしょうか。

JUKIは「イノベーション」、「グローバル」、「品質」を合言葉に事業展開しています。それはそのまま、企業価値の向上へとつながっていきます。

私たちがこれから歩む道には、未知のことがあふれています。私たちは、それを一人ひとりの力をつなぎ、大きな力に変えて乗り越えていきたいと考えています。場合によっては外部との協業も必要になるでしょう。自前主義にこだわらず、柔軟に連携していくことでイノベーションを実現していきたいと思えます。

また、特にナショナルスタッフの活躍に期待しています。すでに国内外のグループ会社が一堂に会するグループ経営会議ではナショナルスタッフもメンバーに加わっていますし、アメリカ・ヨーロッパの販売会社の社長にとどまらず、インドやスリランカにおける地域支店長を務めるナショナルスタッフもいます。こうした動きと合わせ、キャリアデベロップメントプログラムを適用して国をまたいだローテーション人事も実践していく考えです。1年でも半年でもいいので、それまでと違う環境で違う業務を経験し、成長してほしいと思っています。

ナショナルスタッフの働き方を見ていると、情報取得に対する貪欲さ、その情報をすばやくビジネスに使うスピードにしばしば感心させられます。彼らと接することで、日本の従業員の働き方、ひいてはJUKIの文化も変わっていくことを期待しています。

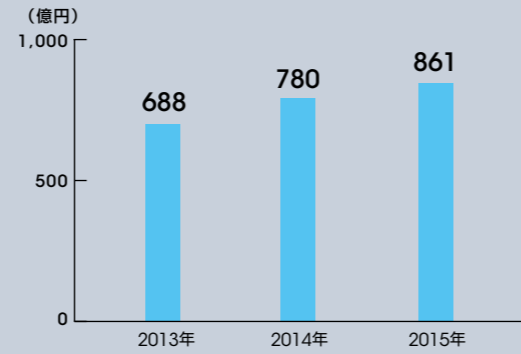
こうした動きは、ダイバーシティの推進にもつながることで、ナショナルスタッフはもちろんお客様も国によって文化や価値観が異なりますが、ダイバーシティの本質は、「異なるものを認め合う」ことです。あらゆる国の方々が活躍し、交流することで、JUKIの企業価値をさらに高めていけるでしょう。私たち経営陣もそのために新しい環境づくりを進めていきます。

JUKIは、「製品競争力の強化」「しっかりとした事業基盤」「収益力の向上」「成長投資の拡大」という成長サイクルを回し、これからも企業価値の向上に積極的に取り組んでいきます。

縫製機器事業



縫製機器事業の売上高



2015年は、工業用ミシン事業、家庭用ミシン事業ともに販売が好調に推移し、縫製機器事業の売上は、前年比11%増加しました。今後は、工業用ミシン事業においては、ノンアパレル用ミシン、自動機、ニット用ミシンの分野で販売の拡大をはかるとともに、東南アジア、南アジアにつづき、アフリカ・中南米での販売拡大をはかります。家庭用ミシンでは、昨年発売したキルト用ミシンと家庭用ミシンを中心に、欧米での販売拡大をはかります。

工業用ミシン事業

ビジョンと成長戦略

ビジョン：全業種・全地域におけるシェアNo.1事業

～ ラインソリューション（スマートソーイングシステム営業）の本格展開による
FA（ファクトリーオートメーション）ビジネスモデルの構築～

成長戦略

JUKIの工業用ミシン事業は、グローバルで約30%のシェアを獲得し、シェアはNo.1です。

今後、ノンアパレル用ミシン、自動機、ニット用ミシン分野の事業領域をさらに拡大するとともに、アジアの新興国地域やアフリカなどでの販売を拡大し、全業種・全地域においてシェアNo.1を目指します。

ラインソリューション提案の拡大

JUKIは、従来の単品セールスから脱却し、お客様とともに課題を解決するソリューション提案に積極的に取り組んでいます。お客様の縫製工場への自動機導入、自動化、デジタル化をご提案するとともに、お客様が必要な商品はJUKIがアライアンス先から調達し、お客様にご提供する、「ワンストップ・ラインソリューション」を推進しています。

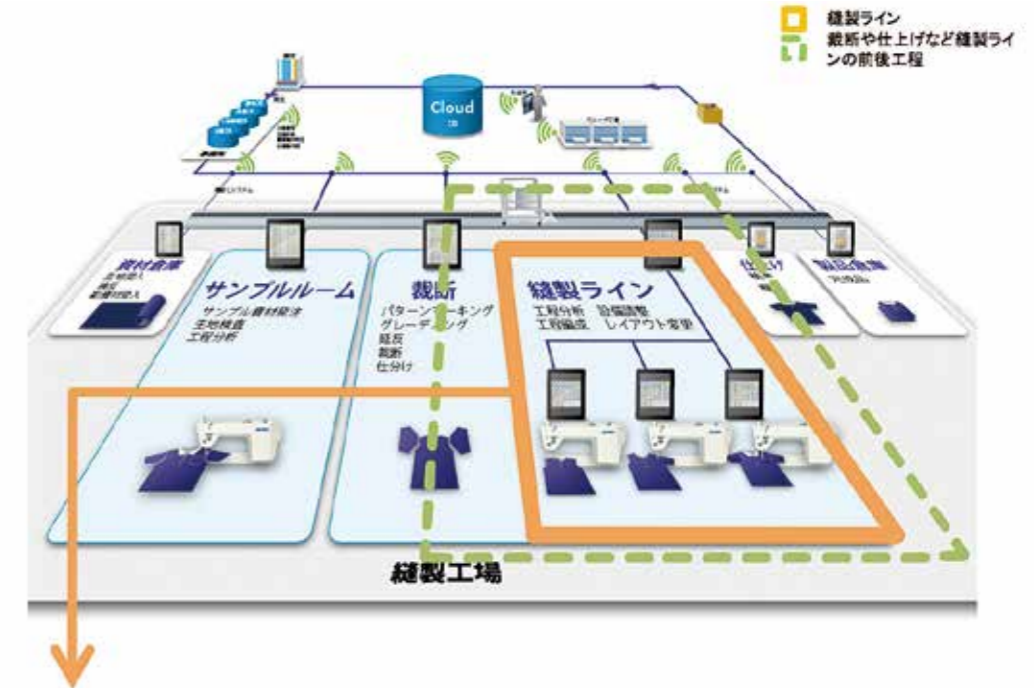
新興国での取り組み強化

近年、縫製産地が中国から東南アジア・南アジアへ移動しています。これは、中国で人件費が高騰し、縫製工場に働く人手が不足しているためです。東南アジア・南アジアは、豊富な労働力に支えられ、今後も縫製産地としての成長が大いに期待できる地域です。JUKIにおける地域別売上高比率では、東南アジア・南アジアは56%と半分以上を占めるまで成長しています。

ラインソリューション提案の拡大

JUKIは、「スマート・ソリューションズ」として3つの提案により、お客様とともに課題解決に取り組んでいます。一つ目は、「人と設備を融合した生産システム」で、高性能な自動機の導入、人の作業を補完する自動化・省力化、ソーイングシステムのデジタル化を実現するものです。二つ目は、「ワンストップ・ラインソリューション」で、縫製ラインの

前後工程もアライアンス提携商品により、お客様に必要な商品をご提供することでソリューションを実現します。三つ目は、「IoTによるシステムリンケージ」を進め、生産ラインをネットワーク化することで、ワールドワイドに展開する縫製工場経営のサポート体制の強化に取り組んでいきます。



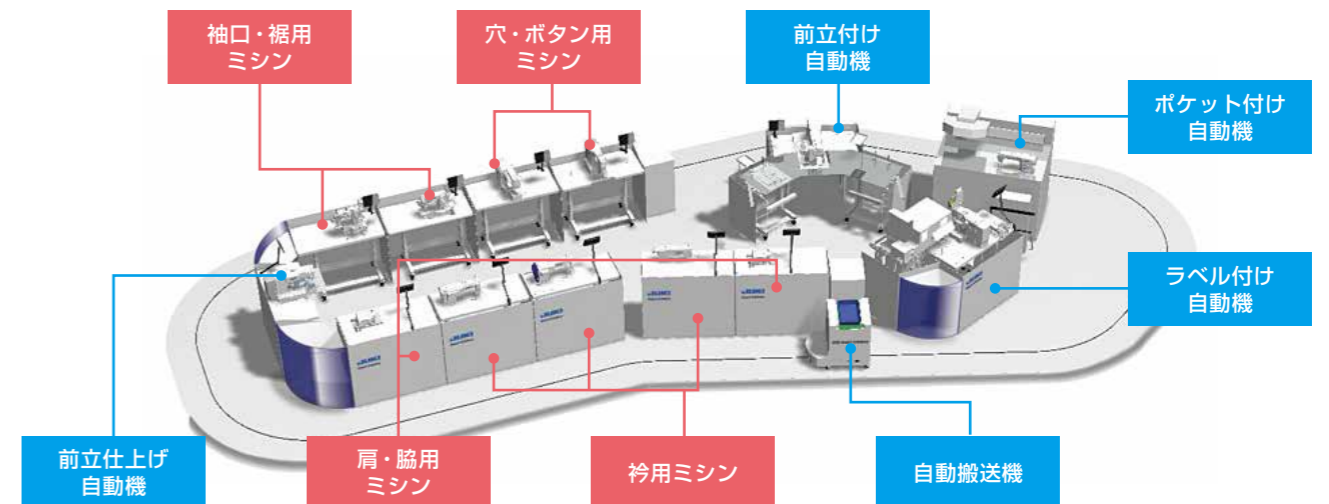
ラインソリューション提案による「スマートファクトリーライン」の構築 ～人と設備を融合し、生産性が高く、人と環境にやさしい工場を提案～

ポロシャツ縫製ラインの例

通常は13人のオペレーターが必要な縫製ラインを、デジタル化・自動化・自動機導入に加えシステム化することにより、4人のオペレーターでの縫製が可能となり、生産性を2倍に向上することができます。

JUKIのラインソリューション提案の主な内容

- ・生産アイテムに応じて、最適な製品・レイアウトと生産システムを提案
- ・デジタル化されたミシンによる調整時間の短縮や最適な縫い目を実現
- ・縫製ライン内の出来高や目標枚数などの進捗をリアルタイムで把握できるシステムを提案
- ・縫製ラインの前後工程に使用される商品を、アライアンス提携商品としてご提供

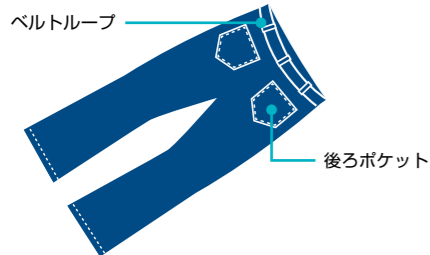
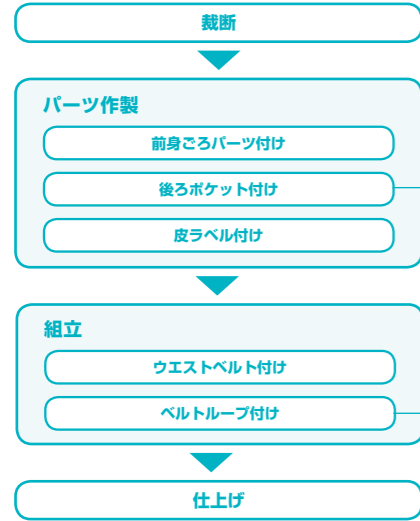


ラインソリューション導入事例

アパレル製品

ジーンズ縫製のラインソリューション

縫製工程



【ラインソリューション提案の一例】

ジーンズの後ろポケットを付けるマシン (AP-876)
ジーンズの後ろポケットを付けるには、ポケット折り、後身ごろへのセット、縫い付けなどの一連の工程があり、これらの工程を一台ですべてできるようにした自動機です。生産性がとても高く、高品質なポケット付けができます。



ジーンズのベルトループを付けるマシン (MOL-254)
ジーンズのベルトループを供給装置により、自動的に縫い付けるマシンです。ベルトループのカット、折り、縫製をマシンが自動で行いますので、生産性を大幅に向上させることができます。

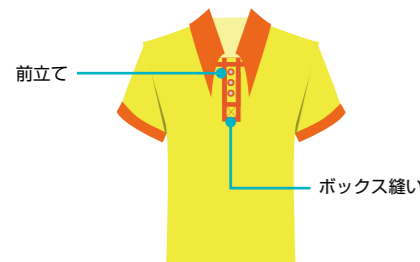
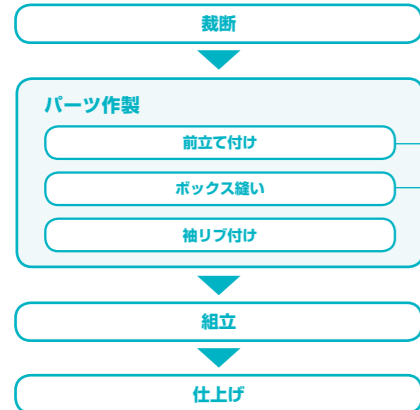


【導入効果例】



ポロシャツ縫製のラインソリューション

縫製工程



【ラインソリューション提案の一例】

ポロシャツの前立てを付けるマシン (AMS-221EN-SS3020)
ポロシャツの前立てを付ける自動機です。前身ごろ生地、前立て布をセットするだけで、あとは自動的に前立て縫製ができ、高い生産性を実現します。



ポロシャツのボックス縫いをするマシン (AMS-210EN-1306)
ポロシャツの前立ての下にあるボックス部分を自動的に縫製するマシンです。ボックス縫いの部分は縫製エリアとしては小さく、縫い方も複雑ですが、このマシンを使うことでスムーズに縫製することができます。



【導入効果例】



ノンアパレル製品

カーシート縫製のラインソリューション

縫製工程



【ラインソリューション提案の一例】

カーシートの合わせ縫いをするマシン (LU-2828A-7)
カーシートの生地と生地の合わせ縫いに最適なマシンです。縫製後の糸摘み作業を軽減した残短仕様で、ホビン交換が少なく作業性が向上する大釜仕様のタイプです。さらに、ヒューマンエラーを防ぐスマートデバイスを使用することで、生産性が大幅に向上します。



【導入効果例A】



【導入効果例B】

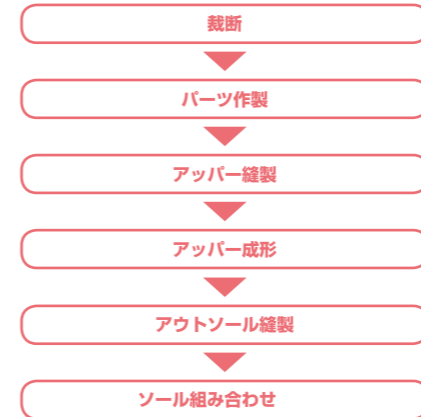


カーシートのトップステッチ縫いをするマシン (PLC-2760-7)
カーシートの表部分に見える縫目を縫製するマシンです。厚手の生地や皮などに、きれいなトップステッチを入れることができ、縫い品質と生産性の向上に貢献します。



スポーツシューズ縫製のラインソリューション

縫製工程



【ラインソリューション提案の一例】

スポーツシューズの靴紐ループを付けるマシン (AB-1360 / CR10A)
スポーツシューズなどの靴紐ループ縫製用の自動機です。ループカット、ループ折り縫製が1工程でき、省人化、脱技能をはかることができます。



【導入効果例】



スポーツシューズのアッパーにブランドロゴマーク等のパーツを縫い付けるマシン (AMS-224EN-4530)
スポーツシューズのブランドロゴマークなどをアッパー部分に縫い付けるマシンです。様々な形状のブランドロゴマークなどの縫製パターンをマシンに記憶させ、自動で縫うことができるため、生産性及び縫い品質が大幅に向上します。



世界180カ国をカバーするグローバルネットワーク

JUKIIは世界各国に拠点があり、このネットワークを生かし、世界中のお客様の幅広いニーズに応じていきます。



新興国での取り組み強化：東南アジア・南アジアに加えアフリカ中南米を開拓

東南アジア・南アジアは、豊富な労働力と中国よりも安い賃金などにより、今や世界の縫製産地に成長しています。また、アフリカのエチオピアや南アフリカなどでも縫製業が盛んになってきています。JUKIIは縫製産地として成長するこれらの地域での販売拡大とマネジメント強化のために、JUKIIシンガポール(株)を昨年10月に地域本社化しました。

また、お客様の縫製工場もグローバル化が進んでおり、例えば、中国の

お客様の縫製工場が東南アジアへ移動する動きも活発になっています。JUKIIは、中国のナショナルスタッフを東南アジアの駐在員として配置し、現地で中国のお客様のニーズにお応えするなどグローバルな体制を強化しています。

今後もこれらの地域でシェアNo.1を実現するため、お客様の視点にたった積極的な販売活動の展開をはかります。

JUKIIシンガポール(株) 管轄の販売網

【東南アジア】

ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン

【南アジア】

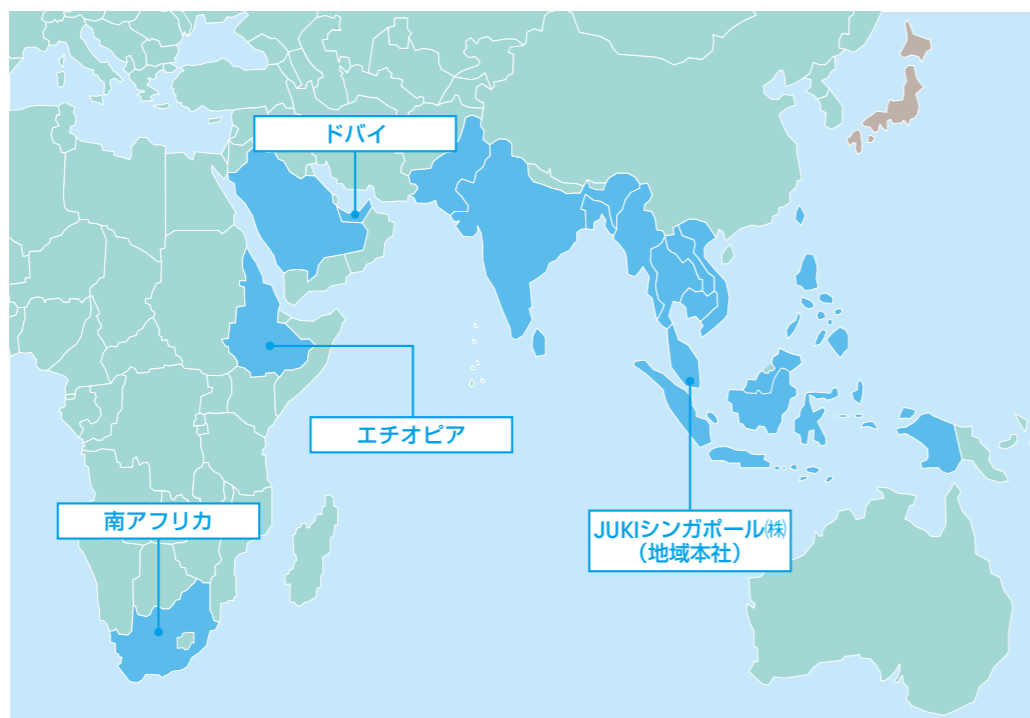
インド、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ

【中近東】

ドバイ、サウジアラビア、バーレーン

【アフリカ】

エチオピア、南アフリカ



家庭用ミシン事業

ビジョンと成長戦略

ビジョン：強く輝きのある事業

～消費者マーケットとの接点を重視し、工業用ミシンの技術を活用～

JUKIIは家庭用ミシンの総合メーカーとして、家庭用ミシン、職業用ミシン、小型ロックミシン、キルト用ロングアームミシンの全てにおいて、工業用ミシンで培った高精度な技術を取り込んだ開発をし、販売しています。JUKIIならではの幅広い

品揃えと工業用ミシンの技術による高品質な縫いや使い易い操作性は、ビギナーの方からプロの方まで幅広いお客様にご支持をいただいています。JUKIIはこれからもご家庭で快適に本格的なソーイングが楽しめるよう、お客様の視点にたった事業展開をはかります。

幅広い人々に愛されるJUKIIの家庭用ミシン

JUKIIは、ホビーショーなどのイベントへ定期的に出席し、展示品を制作するためのミシン提供や協賛を行っています。

また、お客様にミシンを体験していただいたり、ミシンで作る小物などのワークショップも開催しています。

家庭用ミシン事業は一般消費者と直接関わるJUKII唯一の事業であり、展示会などのイベントはダイレクトにお話ができる貴重な機会となっています。



キルトフェスティバルでキルト用ミシンを紹介する中沢フェリーサ先生



世界各国でワークショップを開催 ミシンパッチワーク

世界各地で開催されているキルトショーや手作りのイベントに協賛や出展を行っています。ミシンを展示するだけでなくワークショップや使い方の講習会なども開催し、ミシンの販売にとどまらず手作り文化やお客様の自由な表現活動のお手伝いをしています。

トピックス

展示会などのイベントでは、JUKIIミシンをご愛用いただいているソーイング作家さんや著名人がブースを訪問して下さることがあります。2016年4月に開催された日本ホビーショーでは、篠原ともえ

さんがJUKIIブースに訪れました。篠原さんは、JUKIIの職業用ミシンを学生の頃から愛用し、着物リメイクや洋服などの制作に活用されています。



着物アレンジの胸元リボンの縫製。絹の着物生地をJUKIIの職業用ミシンで縫い合わせていきます

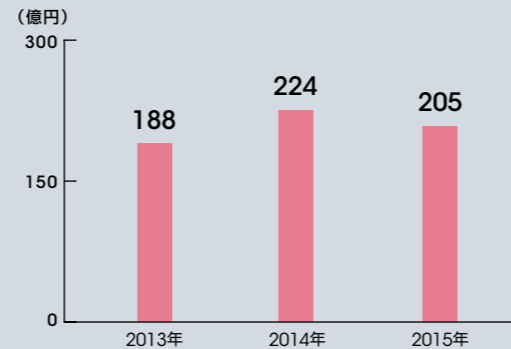


新商品H2L-EX7を体験していただきました。篠原さんは洋裁が得意で本も出版されています

産業装置事業



産業装置事業の売上高



2015年は、新製品のマウンタや省力化設備などで販売が伸びましたが、最大市場の中国では、下半期に入ってから景気減速の影響が顕著になり、設備投資需要が大きく減退したことで、売上高は9%の減少となりました。今後は、実装ライン全体の生産性を向上させる「ラインソリューション」に注力するとともに、お客様のニーズにお応えするために、ストレージシステムなどのアライアンス提携商品なども含めたトータルソリューションにも注力してまいります。

産業装置事業

ビジョンと成長戦略

**ビジョン: ラインソリューション展開力に
抜群の強みをもつ事業**

～顧客ニーズを徹底的に収集しソリューションを提供するビジネスモデルの構築～

成長戦略

基板実装市場では、高精度、高密度、高品質のニーズがますます高まっています。従来は、印刷機、検査機、実装機のラインでのソリューション提案でしたが、近年、「お客様の基幹システム」、「IoT」、「ERP」などネットワークの連携による工場全体のソリューション提案のニーズが増えてきています。

実装ラインの効率化においては差別化が難しくなっていて、それ以外の工程の自動化による生産性向上や品質管理向上が求められて

きています。

その中で実装ライン以外の効率化製品や省人化設備など、JUKIにしかできない実装フロアのトータルソリューション提案、さらには迅速に対応する技術サポート体制もさらに強化します。

お客様のニーズに応え「EASY to USE」な工場づくりに貢献し、お客様の真のパートナーとして、課題や悩みを一つひとつ解決していくことがJUKIの成長につながると確信しています。

工場全体のシステム提案

スマートフォン、タブレットなどのモバイル機器やテレビ、カメラ、車、ゲーム機など私たちの生活の中では、たくさんのエレクトロニクス製品が使われています。このエレクトロニクス製品に組み込まれ、頭脳の役割を担うのが「電子回路基板」です。

私たちのお客様である電子基板を製造するメーカーは、実装ライン全体で生産性向上と高品質な電子回路基板を製造するため、様々な課題に取り組んでいます。

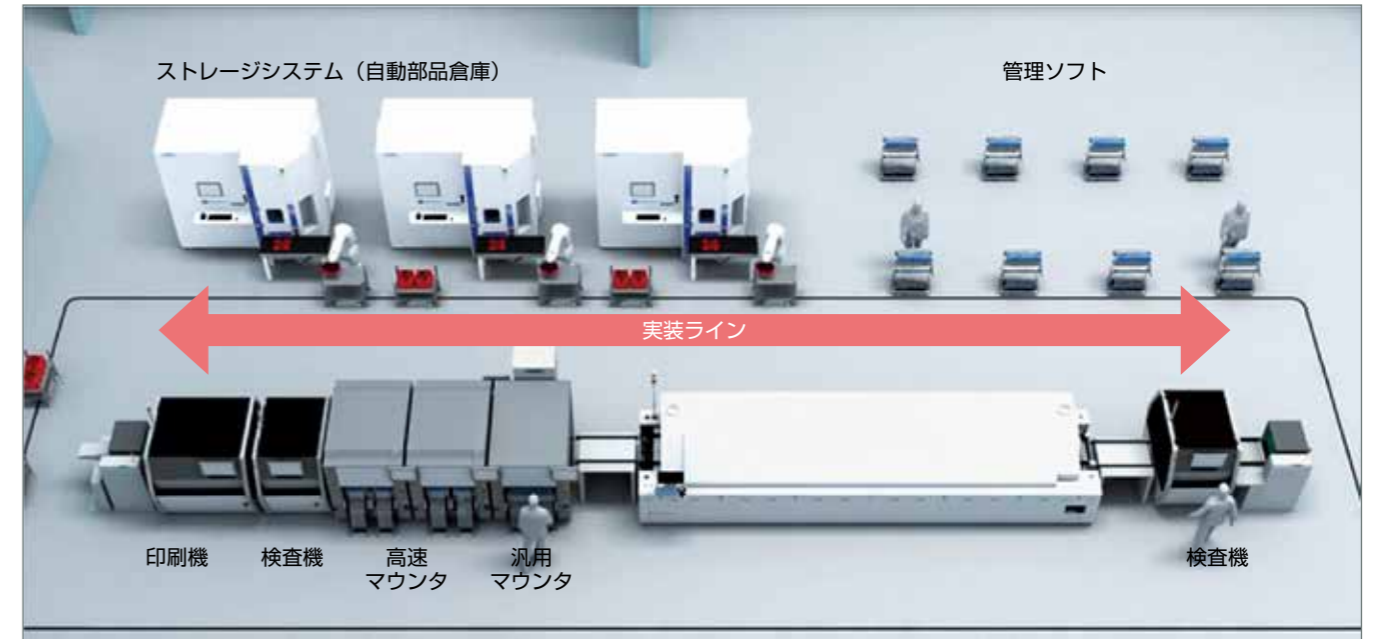
JUKIは、印刷機、検査機、実装機などのラインソリューションに加え、

アライアンス提携商品との連携により工場全体の生産効率向上を目指しています。

また、自動化されていない工程を自動化しシステム提案することによりオペレータが使い易い環境になるお手伝いをしています。

お客様のニーズに応え、さらにその上を目指し、JUKIは提案を続けています。今後さらに省人化、効率化、品質の要求が強くなっていく中、JUKIは広い視野でお客様のお役に立てる製品・システム・サービスを積極的に展開していきます。

実装フロア全体をプロデュース



産業装置の事例

ストレージシステム (自動部品倉庫)の導入事例

JUKIのストレージシステム (ISM-2000) を導入することにより、部品管理の大幅な省人化・省スペース化がはかられます。

- ・部品管理要員：約50%削減
- ・部品倉庫スペース：約70%減

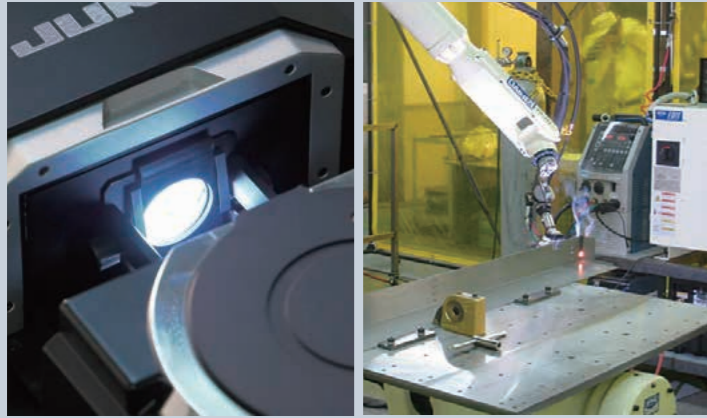


導入前

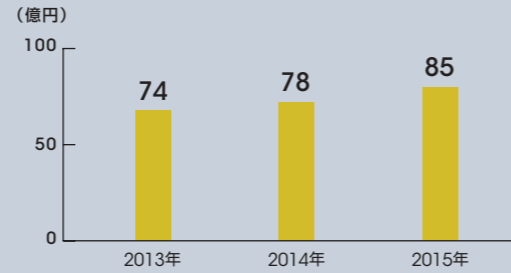


導入後

グループ事業等



グループ事業等の売上高



2015年は、大手企業の一部において国内への生産回帰の動きが見られる中、JUKIは、国内9社と海外1社からなるグループ会社の連携をさらに強化し、受注活動を積極的に展開したことにより、前年比8%の増加となりました。今後は、国内・海外のグループ会社が一体運営を行えるよう、さらに連携を強化し、お客様の期待を超えるものづくり力を発揮し、販売拡大をはかります。

グループ事業

ビジョンと成長戦略

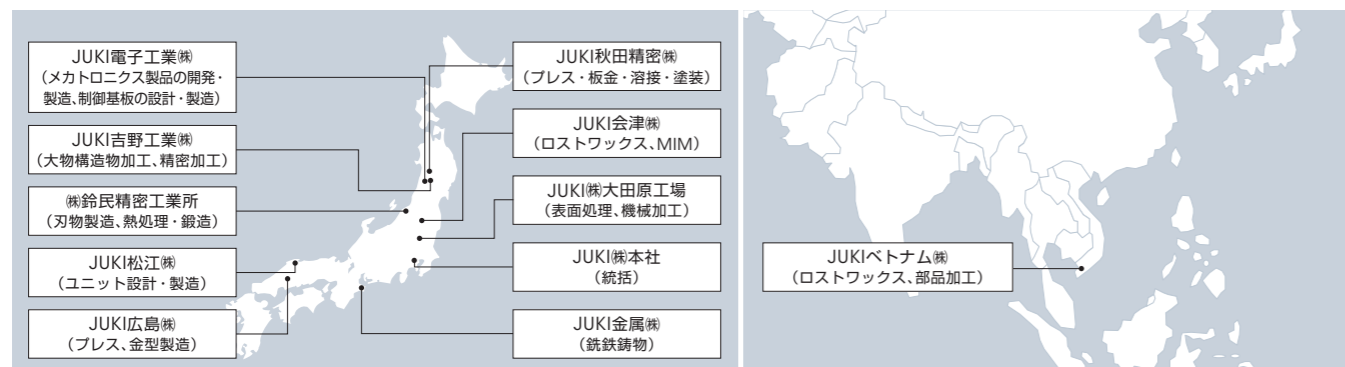
ビジョン：国内・海外のグループ会社の連携を活かした、精密加工・組立に強いものづくり企業グループ

成長戦略

グループ事業は、国内9社、海外1社の製造会社のものづくり力を結集した事業です。主力製品である工業用・家庭用マシン、マウンタなどの設計・開発から部品製造、製品組立を行う中で培われた開発力や精密鑄造・精密加工・板金加工・金型製造など、幅広く高度

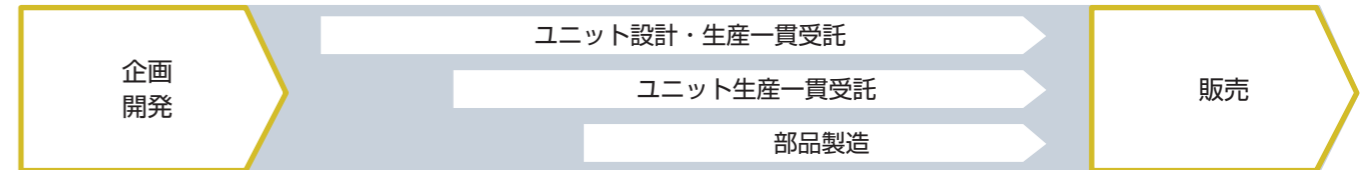
なものづくり力を有しています。

JUKIのグループ事業は、これらのものづくり技術を深化・組み合わせ、お客様が望まれる製品として具現化し、販売拡大をはかります。



グループ事業の多様な製造方法

JUKIのグループ事業は、工業用マシンやマウンタなど主力製品の開発や生産で鍛えられた様々なものづくり力を活用し、企画・開発からユニット生産・部品製造の受託などあらゆるものづくりが可能です。光学機器、OA・FA関連機器、医療用機器、航空機部品など幅広い分野でお客様の要望にお応えしています。



製品事例

●分光測色計



JUKI電子工業株式会社

自社で開発・製造した分光測色計を自社販売しています。

●メーター表示板



JUKI広島株式会社

自動車の板金部品の加工に必要な、高精度のプレス金型の製作をしています。

●人工関節



JUKI会津株式会社

チタン合金のロストワックス製作技術を使って、人工関節の素材を製造しています。

スリープバスター

ドライバーの安全な走行をサポート

スリープバスターは、過労運転防止や交通事故の低減に貢献する装置です。

運転座席にセンサーパッドを装着し、パッドに内蔵されたセンサーが、運転者の上体に発生する生体信号を常に捉えて解析します。運転者の疲労度合いを判定し、集中力の低下や体調の急変（入眠予兆信号など）を画面と音で警告します。

さらに、このデータを「ヒュータコ」という専用ソフトを用いてパソコンに取り込むことで、運行時間内の運転手の緊張・集中・覚醒水準の低下や疲労度合いを分析できます。



居眠り運転警告装置
スリープバスター

データエントリー装置

情報処理に特化したJUKI独自のシステム

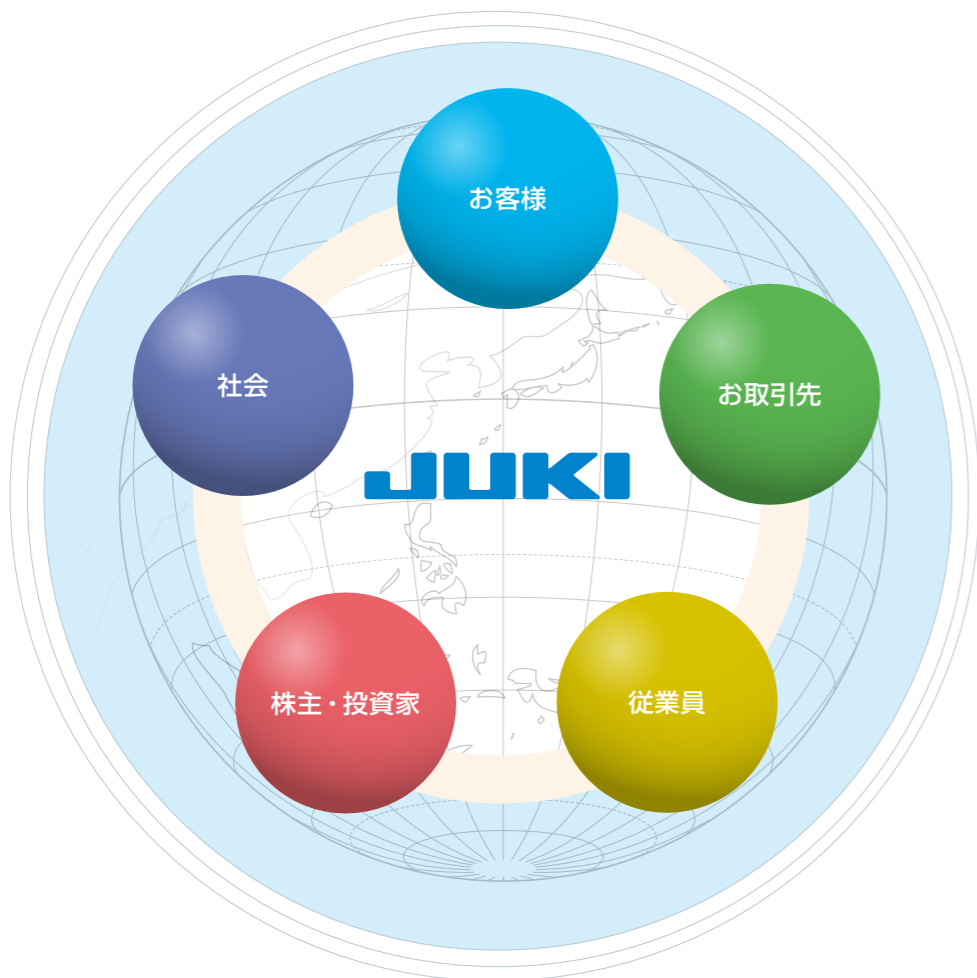
データエントリー装置は、数値や文字などの大量のデータをスピーディーに入力できるように工夫された装置です。

生命保険会社、銀行など大量の情報を処理する業界の「機密情報や個人情報の保護」、「OCR処理と連携したイメージントリーの効率向上」、「高速通信インフラを利用したデリバリーレス」など、情報処理産業のニーズに対応するため、処理機能強化や人的ミスを軽減する装置の開発を進めています。



ステークホルダーとの関わり

ステークホルダーに配慮した企業活動を行い、互いの利益を実現させることが、企業価値の向上につながると考えています。
私たちは、全てのステークホルダーに必要とされる企業を目指します。



お客様

JUKIグループが提供する製品やサービスを末永くご利用いただくことで、お客様にとっての生涯価値を最大限に高められるよう努めています。



お取引先

お取引先との「共存共栄」という観点から、お互いに切磋琢磨し成長していける関係の構築に努めています。



従業員

事業展開するそれぞれの国で、従業員がいきいきと働ける組織・風土を確立し、ES（従業員満足）の向上をはかっています。



株主・投資家

株主価値の向上をはかるとともに、財務体質のさらなる改善と安定的な配当を実施するよう努めています。



社会

良き企業市民として地域・社会との交流を深めるとともに、環境問題に真摯に取り組むことで、社会的に価値があり魅力のある企業となることを目指しています。

お客様とともに

JUKIはお客様の声を直接聞くことができるよう、サポート体制の充実やSNSの活用に取り組んでいます。お客様との接点を増やすことで、お客様に満足いただける製品・サービスを提供し続けます。

生産管理コンサルティング

スマートソーイングシステム部（縫製研究所）では、5,000件以上のコンサルティング実績をもとに、直接工場に伺い、お客様のニーズに合わせて現状調査・分析を行い、生産性向上のための適切なアドバイスを行っています。

- 稼働分析
- ▼
- 工程分析
- ▼
- 動作研究
- ▼
- 時間研究
- ▼
- 工程編成
- ▼
- レイアウト



服飾学校へのサポート

JUKI販売(株)は各地の服飾専門学校（写真）や大学で、ミシンの使い方や定期メンテナンスのサポートをしています。学校ではアパレル産業を理解するためにミシンを使った授業があり、時には社員が講師を勤めながらミシンの操作方法や注意点などを教えています。入学シーズンは生徒さんがミシンを購入する時期でもあり、学校内に販売ブースを構え、ミシン選びのサポートや使い方についてのご相談をお受けしています。備品として学校に納入されているミシンについては、定期的にメンテナンスを行っています。現在はこうした協力体制を海外の服飾学校にも広げています。



お客様向けセミナー

2015年11月14日、本社多目的ホールにて、JUKIデータエントリーシステムをご利用のお客様にお集まりいただき「第4回JUKIセミナー」を開催しました。この会合は、お客様とJUKIだけでなく、お客様同士の交流をはかり、仕事の面で発展することも目的にしており、徐々にではありますが、お客様同士での協業実績が出てきています。青森から沖縄までのお客様が和やかに、かつ真剣な議論をされました。今後もお客様とJUKIがますます発展するような、イベントを企画していきます。

お客様とのコミュニケーション

● ジューキマガジン (jm)
アパレル業界の皆様へ、実践的な工場事例やアパレル業界の動向、新製品に関する情報をお届けするためのWebサイトです。中国語版、英語版も発信しています。また、ジューキマガジン最新号のお知らせやアパレルに関する広範囲な情報をお届けするメールマガジン「jmニュース」も掲載しています。



● Facebook / YouTube

家庭用ミシンでは、YouTubeでアタッチメントの使い方を紹介したり、Facebookで展示会や商品の情報配信を行っています。



お取引先とともに

JUKIグループは、地球企業の一員として、お取引先とともにグリーン調達を推進しています。公平で公正な取引に注力し、お取引先とともに技術力の向上に努め、共存共栄を目指しています。また、説明会や研修会を通して、お取引先とのコミュニケーションを強化しています。

調達方針

お取引先の選定にあたっては、「取引先審査表」による公正な評価を行っています。また、国内外を問わず、「JUKIが要求する品質・コスト・納期の条件を満たすこと」に加え、法令や社会規範の遵守、基本的人権の尊重、「JUKIグループグリーン調達ガイドライン」への適合、労働安全衛生への取り組み、知的財産保護への取り組みなどを評価し、お取引先を決定しています。



お取引先とのコミュニケーション

JUKIでは年3回の交流会を開催し、お取引先とのコミュニケーションをはかっています。

毎年11月の品質月間に合わせた研修会では、JUKIの取り巻く環境と今後の方向性についての講演や、顕著な成績を収められた取引先に対し「優秀会社表彰」の顕彰と「保証納入認定書」の交付を行っています。

2015年はJUKI本社にて開催し、国内外のお取引先102社、106名にご参加いただきました。「優秀会社」1社、「努力会社」6社を表彰し、56社に保証納入認定書を交付し、お取引先との協力関係維持強化に努めています。

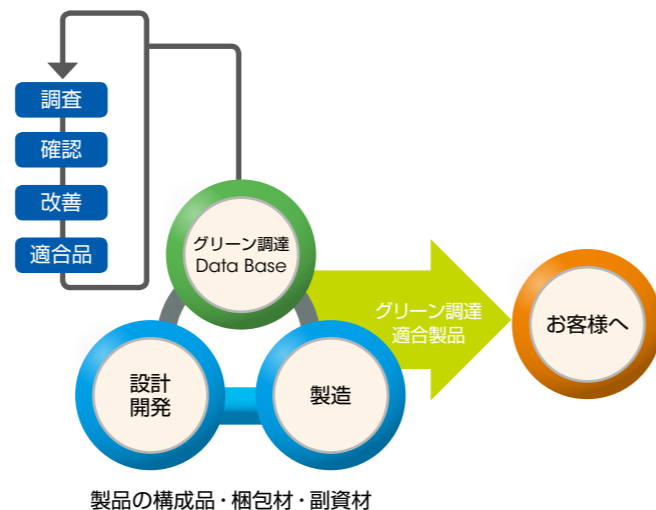


グリーン調達

JUKIグループでは、「ECO MIND宣言」に基づいて、地球環境にやさしい環境保全活動に、お取引先とともに取り組んでいます。環境負荷の少ない材料・部品・製品などを優先的に調達・購入することは、有害化学物質の削減になります。

2011年からは物質管理の手段として、サプライチェーンを基本にした業界標準のJAMP AIS調査ツールを取り入れて、国内外の拠点で活動を展開しています。また、製造拠点においては、それらの入荷時に有害化学物質分析を行うことで、万一の有害物質混入を防いでいます。

今後も企業活動に対して、法規制強化など、環境問題に対する社会的責任や要求は高まると考えられます。グリーン調達を重要な課題と位置づけ、欧州REACH規制やCLP規則など、追加管理対象物質に対応した出荷品の適合活動を行い、各国の規制に対応していきます。



従業員とともに

JUKIグループは、全世界の拠点の社員とともに成長を続けるグローバル企業です。世界に展開するJUKI社員が働きやすく、仲間同士で良い風土をつくっていくことを心がけています。多様な人材が活躍し、会社の発展を実現できるよう、国内外を問わず働く環境の向上に努めています。

永年勤続表彰

JUKIグループ初の海外工場である上海重機ミシン(株)が1990年の設立から25周年を迎えました。25年の永きに亘り、上海重機ミシン(株)およびJUKIグループの発展に大きく貢献された永年勤続者4名に感謝状等を贈呈しました。グローバルに展開していく中で働きやすい社風を心がけ一人ひとりを大切にしています。



健康経営の推進

JUKIで取り組んでいる健康促進の事例を紹介します。

●ベジファースト

2016年6月に「初夏の健康経営キャンペーン」と題し、本社食堂にて野菜フェアを実施しました。ベジファーストを支援する野菜小鉢を手ごろな価格で提供し、また、栄養に偏りのあるメニューに対しては、バランスを考えた野菜小鉢をセットメニューにして、食習慣の改善に取り組みました。

●全面禁煙

多摩本社では、2015年7月に「JUKI健康経営セミナー ～日本人だけが知らない?! グローバル基準のたばこの真実～」を実施しました。また、就業時間中および建物内の全面禁煙を2015年10月より実施しています。

●社員フロア

従業員の健康増進と自己啓発を目的として、2014年6月に本社に「社員フロア」ができました。ここでは、卓球、エアロバイク、バランスボールなどの軽運動ができる設備を整えました。さらにリクライニングチェアでの休憩や家庭用ミシンを使い手芸などを楽しむこともできます。

風土改善の取り組み

JUKIでは創立75周年に次の100周年に向けて「面倒見の良いカルチャー」を醸成するために、相手のことを本気になって思う風土づくりとしてメンドミ運動を行っています。各職場から選ばれた世話人サークルとメンドミ運動事務局を設立し、面倒見の良い風土の浸透をはかっています。



合同の「TWI-JI」を実施

JUKIグループは、現場職制が作業者に仕事を正しく素早く教えるための技能と方法を習得する「TWI-JI教育」を行っています。

重機（上海）工業(株)の新任職制6名と上海重機ミシン(株)の職制8名が参加し、拠点間のリソース共有化を目的に実施しました。

「技能は訓練、練習すればマスターできる」という認識の下、実践練習とケーススタディーを多く盛り込んでいます。参加者はこの教育で学んだノウハウを業務に活かし、より良い仕事環境をつくっています。



株主・投資家とともに

JUKIグループは、株主や投資家の皆様への正確でタイムリーな情報公開を通して、経営の透明性を高めていきたいと考えています。株主や投資家の皆様からいただいたご意見を参考に、ご期待に応えられるよう努めています。

株式併合、単元株式数の変更

JUKIは、2015年7月1日付けで、株式併合と単元株式数の変更を行いました。これは、全国証券取引所が、投資家など市場利用者の利便性の向上と、日本の証券市場の国際競争力の向上を目指して、国内上場会社の売買単位を100株に統一するという方針に基づくものです。当社は、この趣旨を尊重し、売買単位を1,000株から100株に変更するとともに、証券取引所が望ましいとする投資単位の水準（5万円以上50万円未満）にするため、株式併合を行いました。

株主総会

毎年3月に定時株主総会を開催し、より多くの株主様にご参加いただけるよう、集中日を避けるなどの工夫をしています。2016年3月29日には、JUKI本社において「第101回定時株主総会」を開催し、株主の皆様にも多数ご来場いただきました。また、株主総会終了後には、恒例の主力製品見学会を実施し、出席された株主の皆様とのコミュニケーションを深めることができました。株主の皆様からいただいたご意見を今後の取り組みに反映させ、ご期待にお応えできるよう引き続き努力いたします。

IR決算説明会

JUKIは、株主・投資家とのコミュニケーションを強化するために、適切な情報開示と理解促進に積極的に取り組んでいますが、この一環として機関投資家を対象とした決算説明会を年2回開催しています。2016年2月15日、(株)日本投資環境研究所（中央区日本橋）で、2015年12月期の決算説明会を行い、「2015年12月期業績の概要」および「中期経営計画（2015-2016年）の取り組みと2016年度の重点施策」について、説明を行いました。また、個人株主様からのお問い合わせへの対応や証券アナリスト、ファンドマネージャーなどの個別取材に対応するなど、積極的な対話に努めています。

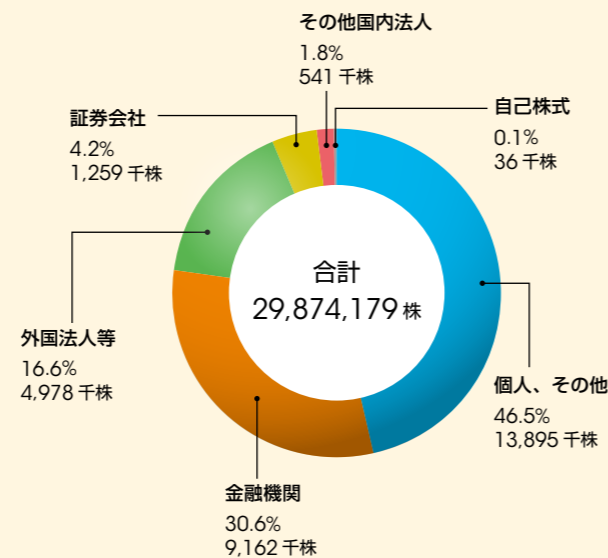


●大株主（上位10位）

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,511	5.06
株式会社みずほ銀行	938	3.14
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	774	2.59
日本生命保険相互会社	732	2.45
JP MORGAN CHASE BANK 380634	695	2.33
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG / JASDEC / FIM / LUXEMBOURG FUNDS	620	2.08
朝日生命保険相互会社	569	1.90
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	553	1.85
第一生命保険株式会社	511	1.71
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OMO2505002	499	1.67

2015年12月31日現在

●株式の所有者別分布状況



社会とともに

JUKIグループは、世界に広がる販売ネットワークにより約180カ国のお客様に製品をお使いいただいています。世界各国において、それぞれの地域および社会と良好な関係を築くことができるよう、JUKIグループ各社とともに取り組んでいます。

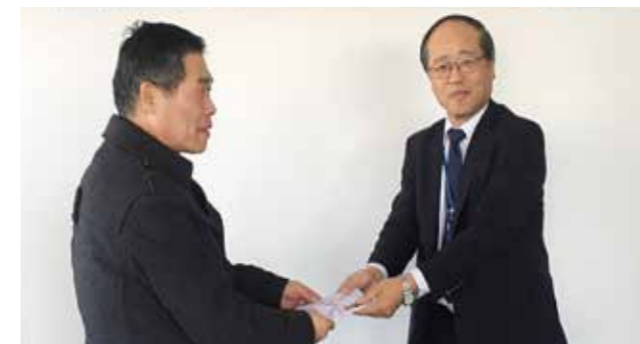
社会科見学の受け入れ

東京都多摩市への本社移転をきっかけに、地域社会とより良い関係を築けるようにと始まった、近隣の小学5年生の社会科見学の受け入れも、2015年で6年目を迎えました。2015年は10月に、南鶴牧小学校と大松台小学校から190人が来社し、屋上庭園・食堂・中央監視室・ショールームなどを見学されました。見学後、それぞれが学んだことを「JUKI新聞」としてまとめてくれました。



地元への募金贈呈

重機（中国）投資㈱は、2015年下期より事務所内に募金箱を設置して、社員や出張者から集めた募金を、地元（上海市普陀区長風地区）の事務管理センター（区役所の出先機構）に、社会貢献活動の一環として贈呈しました。2月3日、当管理センターの唐主任以下2名に重機（中国）投資㈱にお越しいただき、中国のお正月である春節を迎えるにあたり、後藤董事長より募金を贈呈しました。今回の活動に対し、この地区での外資企業での第1号事例として高く評価、感謝されました。今後も社内外でこのような活動を継続して、地元政府・地域との連携を深め、地元にも少しでも貢献できるように努めていきます。



唐主任

後藤董事長

手提げバッグ製作講習会

2015年7月23日、24日の2日間、本社にて「親子・手提げバッグ製作講習会」を開催し、44組90名の親子に参加していただきました。この講習会は、ミシンの楽しさ、ものづくりの楽しさを感じていただくことを目的に、毎年夏休みに開催し、2015年の開催で9回目となりました。製作したのは、保護者の方がファスナーポケットをつけた「バッグインバッグ」、子どもたちはA4サイズが入る実用的な手提げバッグで、それぞれ好みの生地柄を選んでいただきました。今後もミシンの楽しさ、ものづくりの楽しさを感じていただくこの活動を推進していきたいと思っています。



中学校へ出前授業

2015年10月と11月に(株)鈴民精密工業所の渡邊広之社長が「長岡企業から世界を学ぼう」をテーマに、寺泊中学校の2年生82名と、東北中学校の1年生263名に講話を行いました。これは、地元の企業関係者の実体験を聞くことで、子どもたちに将来の夢を考えてもらおうと、長岡市教育委員会が企画し、渡邊社長に依頼があったものです。渡邊社長は中国での駐在経験を中心に、子どもたちに「海外で活躍するには受身の姿勢ではなく、新たに挑戦する“志”が必要」と話されました。この授業の様子は「新潟日報」でも紹介されました。



品質経営への取り組み

お客様にご満足いただける品質を確保し、「信頼のJUKI」としてグループを挙げて製品・サービスの品質向上や業務改善に努め、たゆまぬ努力で持続的な成長を目指しています。

JUKI GLOBAL QUALITY MANAGEMENT FORUM



2015年11月24日に役員・社員377名が出席し、第1回「JUKI GLOBAL QUALITY MANAGEMENT FORUM」を開催しました。これは、従来より製造拠点で取り組んでいる「QCサークル世界大会」に、「トップダウン活動発表会」を併せた大会で、経営の重点の一つである「品質経営の進化」に向けた、JUKIグループの全社的な活動です。トップダウンテーマ、ボトムアップテーマにかかわる多数の応募の中から

選考の結果、トップダウンテーマ7つとボトムアップテーマ4つの発表を行い、JUKIグループ全体での優秀な品質への取り組みを勉強する機会となりました。これからも社員一人ひとりが品質経営への理解を深める活動を続けていきます。

品質保証体制と製品安全の取り組み

JUKIは創業以来、品質を軸としたものづくりに取り組み、1981年にはデミング賞を受賞しました。この品質重視の考え方は今日まで受け継がれ、JUKIの品質経営を支えています。今後も品質の維持・向上に主眼をおいたレベル向上活動を行い、お客様にご満足いただける製品とビフォー・アフターサービスを展開していきます。また、JUKIグループでは、お客様に製品を安全に安心してご使用いただくことを、CS（顧客満足）の中で最も重要な項目の1つと捉え、製品安全確保への取り組みを行っています。

サポート体制

産業装置事業の手厚いサポート体制を支えるのは「お客様の製造ラインを止めてはいけない」という熱い思いです。目標は、マシントラブルへの24時間以内の対応です。強固なサポート体制を構築し、不測の事態にも柔軟に対応し、365日、世界中のお客様に安心をお届けし、信頼を得ています。

イノベティブな取り組み

お客様へクリエイティブな提案ができるよう、ロボット縫製や自社工場のスマート化などの取り組みにチャレンジしています。



ダイバーシティの推進

2016年4月1日、人事部にダイバーシティ推進室を設置しました。
多様な人材を活かし、その能力が最大限に発揮できる機会を提供することで、組織パフォーマンス向上・働き方改革を目指します。

多様な人材が最大限に能力を発揮できる組織に



ダイバーシティ推進室
室長 中野 栄子

勤務地限定や勤務時間などの働き方の多様性を受け入れ、社員がその能力を発揮できる環境をつくることで、イノベティブで活気ある社員と風土が醸成され、結果として組織パフォーマンス向上、働き方改革、生産性向上につなげていくことを目指しています。

—ダイバーシティの取り組みをどのように進めていくのでしょうか。

JUKIのダイバーシティの取り組みの柱は3つあります。①女性活躍推進、②グローバル人材配置、③再雇用・契約社員の活躍推進です。

女性活躍は、大きな柱として取り組みます。女性の職務経験の充実や能力開発を通じて、より一層、活躍の場を広げていくことに加え、女性の活躍を阻害する要因を取り除くことに注力します。

グローバルな人材配置は、JUKIグループを担うリーダー育成として、上級職位へのナショナルスタッフ（現地法人採用社員）登用やグループ内の人事交流ができる制度の整備を進めます。

再雇用や契約社員の活躍については、多様な働き方を柔軟に組み合わせることで、それぞれの能力を最大限発揮できるような処遇と働き方のマッチングを進めていきます。

今後も、多様な背景をもった社員が異なる視点での議論が社内・グループ内で、活発になされ、活気ある企業風土づくりのきっかけになるよう活動していきます。

— JUKIグループを取り巻く労働環境について教えてください。

大きな労働環境の変化として、①日本国内の労働人口減少・少子高齢化等の労働環境の変化、②JUKIの事業活動のグローバル化があげられます。

こうした中で、JUKIグループは優秀な人材を確保し続けることが重要な経営課題となり、2016年4月に人事部にダイバーシティ推進室を設置しました。性別・年齢・国籍といった多様な属性、

ダイバーシティの・マネジメントの目的

中期経営計画方針「21世紀を生き抜くグローバルなものづくり企業」を実現するため、
優秀な人材を確保し、人材基盤を強化する

属性の多様性

性別 年齢 国籍

働き方の多様性

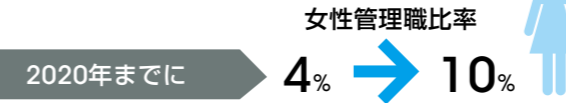
勤務地 職種 勤務時間

多様な人材、多様な働き方を受け入れ、
その能力を発揮できる環境をつくる

組織パフォーマンス向上、
働き方改革・生産性向上へとつなげる

主な取り組みテーマ

1. 女性活躍の推進



当社では、社員に占める女性の比率に比べ、管理職・職制に占める女性の比率が低く、女性社員の能力開発・活躍が課題となっています。女性のキャリア形成支援を進めるため、行動計画を策定し、女性活躍推進にさらに力を入れていきます。

《女性活躍推進のための行動計画》

【行動計画1】 能力、意欲、経験を軸にした採用、配置の推進

【行動計画2】 職務経験を通じた能力向上、職責の拡大をはかる

【行動計画3】 成果に基づく適正な評価の徹底

【行動計画4】 組織マネジメント改善、働き方改革により、長時間労働を前提としない仕事の推進

2. グローバル人材活躍の推進

JUKIグループではグローバル化が進み、従業員数6,245人のうち60%が海外従業員となっています。

現在、日本人が海外の事業所へ出向するにとどまらず、海外の拠点間での異動により、海外従業員もより活躍できる制度構築を目指しています。また国内外の従業員がグローバルに活躍するために必要なスキル・知識の研修プログラムを進めていきます。



3. 再雇用・契約社員活躍の推進

60才定年以降も継続して働ける再雇用社員、勤務地・勤務時間・職種を限定した契約社員など、多様な働き方で活躍できる環境を整えていきます。

グループ会社女性管理職意見交換会

2016年7月12日に本社にて、初めての試みとして、グループ会社女性管理職意見交換会を開催しました。

国内外（本社・地域統括拠点）の女性管理職が集まり、JUKIのダイバーシティマネジメントの課題や、各拠点での女性活躍の在り方などについて論議をしました。

多様な背景を持つ社員が同じ目標に向かって活動する上で、マネジメント上の課題を出し合い、共有しました。

女性活躍については、

- 業務の効率化・部下の育成・権限委任による仕事の分散化が、仕事と家庭の両立には必要
- 誰かが急に休んでも業務が回るような多能工化マネジメントの工夫
- 長時間労働の改善には、仕事の納期管理と優先順位付けが必要など、組織を束ねる立場の女性管理職同士での意見交換ができました。



JUKIの従業員両立支援制度

- 短時間勤務制度
→1日の勤務時間を最高2時間短縮することができる制度です。
→小学校6年生までの子を養育する場合、家族の中で介護の必要な方がいる場合に使用できます。
- 産休制度
→出産前後の母体保護のため、産前6週間、産後10週間の休暇を用意しています。
- 休職制度
→育児や介護のために希望する場合、1年3ヵ月まで休暇を取れる制度です。

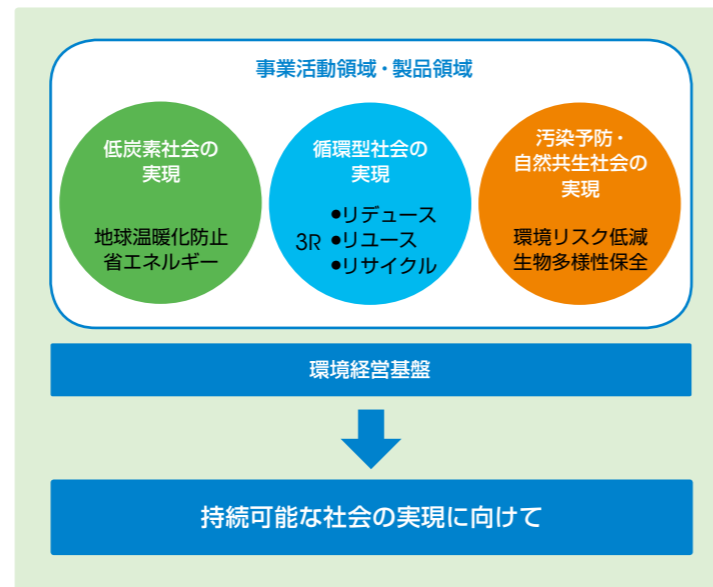
環境ビジョン

環境に配慮したものづくりを通じて、
お客様、地球環境に貢献していきます

JUKIグループでは、ものづくり企業として地球環境を大切に、資源の有効活用、リサイクル、省エネルギーに積極的に取り組んでいます。さらに安全で環境負荷の少ない製品をお客様に提供し、地域の産業発展に貢献することで、お客様をはじめとして広く社会から信頼され、社会にとって存在価値のある会社であり続けることを目指します。

JUKIグループ環境保全活動の考え方

JUKIグループは、持続可能な社会の実現に貢献するために、「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「汚染予防・自然共生社会の実現」という3つの領域で環境経営を実践しています。これらを全てのステークホルダーに、より具体的に示すため、「環境理念」と「環境行動指針」からなる「ECO MIND宣言」を行っています。「ECO MIND宣言」とは、JUKIのコーポレートスローガン「Mind & Technology」を構成するMindの「品質」、「顧客満足」、「人間性尊重」に、「環境」を加えることです。これに基づいて、JUKIグループが具体的に環境への取り組みを進めるための指針「環境保全ガイドライン」を策定し、JUKIグループとしての環境保全活動を実践しています。また、情報交換や水平展開を行い、グループ全体のレベルアップをはかっています。



ECO MIND宣言

環境理念

JUKIグループは、企業活動が広く地球環境と密接に関わっていることを認識し、

1. 環境に配慮した企業活動により、地域と社会に貢献する。
2. 環境にやさしい製品を世界の人々に提供する。
3. 持続的な活動を通じて、よりよい地球環境を次世代にひきつぐ役割を果たす。



環境行動指針

1. 事業活動全般にわたって省エネルギーを推進し、地球温暖化防止に努める。
また3R (リデュース・リユース・リサイクル) の実践により資源の有効利用を図る。
2. 環境への影響に配慮した企画、研究、開発、調達、生産を行い、より環境負荷の少ない製品を提供する。
3. グローバル企業として、事業展開する全ての国や地域の特性に応じた環境保全活動を通して、その国や地域に貢献する。
4. 環境関連法規制及び同意するその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染を予防する。
5. 環境情報の公開を積極的に行う。
6. 教育・啓発活動を通じ、社員一人ひとりは「環境意識」の向上を図り、環境保全活動を実践する。

トピックス

本社ビルの環境配慮設計

2009年12月よりJUKIグループの新しい拠点として稼動した本社ビルは、環境と省エネルギーに配慮した設計となっています。エネルギー使用量をエネルギー種別 (電気・ガス・水道)・用途別・ゾーン別に計測把握し、運用改善を行えるシステム (BEMS) を採用。雨水処理装置や高断熱複層 (Low-E) ガラスなど、省エネルギー設備・システムも導

入しました。その環境性能はCASBEE (建築環境総合性能評価システム) の「Aランク」相当の評価を得ています。また環境面だけでなく、人と人が自然にコミュニケーションを取れるような空間設計など、使いやすさも考慮しています。

雨水の活用

屋根面への降雨を集水し、雨水を砂ろ過滅菌処理した後、トイレ洗浄水や構内植栽への散水などに利用しています。

屋上・構内緑化の推進

屋上や構内をできる限り緑化 (東京都の緑化基準面積の約2.5倍) することで、建物の断熱性を高め、ヒートアイランド現象抑制に貢献しています。敷地境界より立体化した緑化を行うことで、近隣に対しても緑あふれる景観を創出しています。また緑化によって従業員は疲れを緩和したり精神的安らぎを得ることができ、従業員にとっても快適な環境を実現しています。

自然光の利用

トップライトを設置。自然光をより多く取り入れることで省エネルギーに貢献するとともに、地階の執務環境の改善をはかっています。

日射遮へい

高断熱複層 (Low-E) ガラスの採用により、日射負荷を抑制し、空調負荷低減を実現しています。また、外壁およびガラス部分に酸化チタンコーティングを塗布し、自然光および雨水による自浄作用を促し、自然エネルギーを活用しています。

照明制御

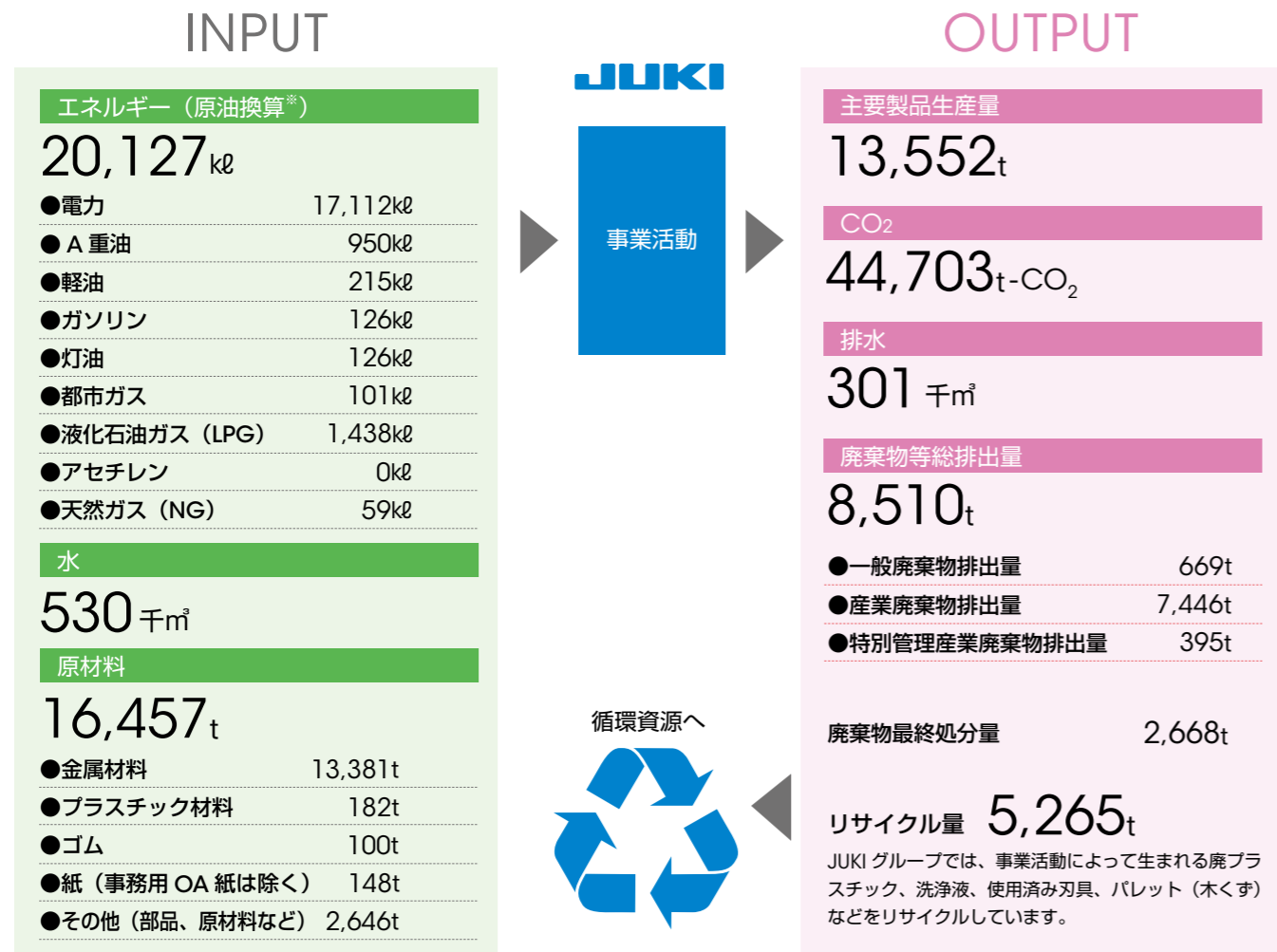
高効率で寿命の長いHf蛍光灯を主体とし、調光センサーによる状態に応じた調光制御が必要な明るさを確保しつつ、省エネルギー化をはかっています。



JUKIはどんな会社？ JUKIが目指すもの JUKIの事業 企業価値創造を支える力 データセクション

事業活動における環境への影響

JUKI製品は、部品や材料に貴重な資源を使用し、多くのエネルギー・資源を使って製造されています。このためJUKIグループでは、事業に関連する環境負荷を明らかにして、環境パフォーマンスの改善を進めています。



※このデータは JUKI と国内・海外製造グループ会社の 2015 年度データについてまとめたものです。
※原材料については、一部把握できていないグループ会社もあります。

INPUT

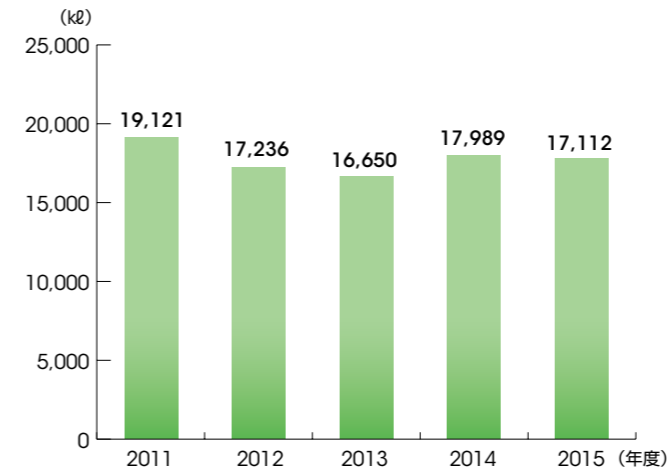
- 電力：工場やオフィスで使用する電力会社からの購買電力
 - A重油：塗装施設の乾燥炉など、設備を動かすために使用
 - 軽油：トラックの燃料
 - ガソリン：社用車の燃料
 - 灯油：暖房用（温風機）の燃料
 - 液化石油ガス：常用発電機の燃料
 - アセチレン：設備修理時、鉄板切断やガス溶接の燃料
 - 天然ガス：食堂での調理や浴室給湯などの燃料
 - 金属材料、プラスチック材料、ゴム：部品の材料
 - 紙：輸送用ダンボール、製品の梱包、荷崩れ防止用および製造工程での製品の打コン防止用
- ※原油換算：異なるエネルギー量を共通の尺度で比較するために発熱量を用いて、原油の量に換算したもの

OUTPUT

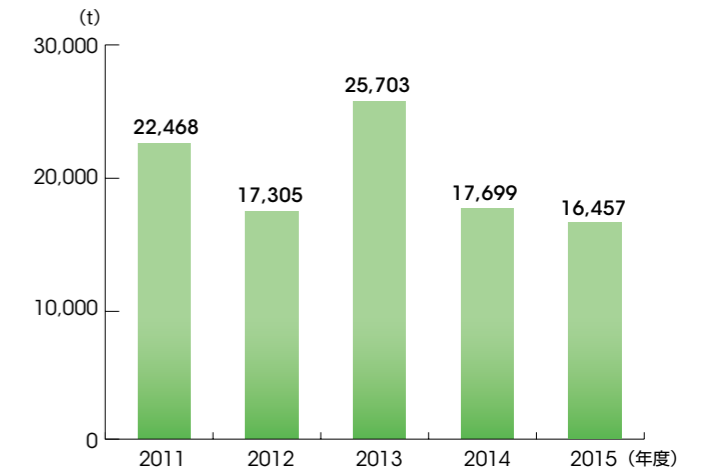
- CO₂：電気や燃料の使用に伴い発生
- 一般廃棄物：家庭や企業などから排出される廃棄物のうち、産業廃棄物以外のもの。ここでは事業活動の中で排出される生ごみなどの生活ごみや、紙ごみなどを含む
- 産業廃棄物：工場などの事業活動に伴って排出される廃棄物のうち、法律で定められた 20 種類の廃棄物。鋳物に使用した廃砂、パレット（木くず）、切削油、開発製品の試験研究に使用した試作機などを含む
- 特別管理産業廃棄物：産業廃棄物の中で、爆発性、毒性、感染性が高く、人の健康や生活環境に被害を生ずる恐れがあるもので、特に厳重な管理が必要。古いコンデンサなどに含まれる PCB など
- 最終処分：廃棄物でリサイクルできないものを埋立処理すること
- リサイクル：資源として再生して有効利用すること

主なINPUTの推移

電力（原油換算）

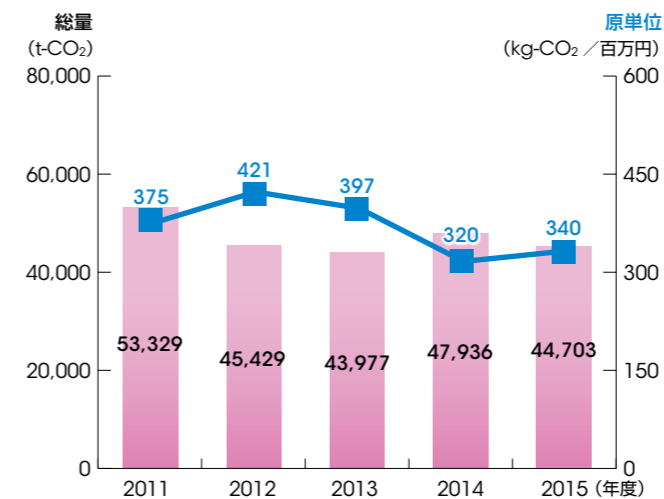


原材料

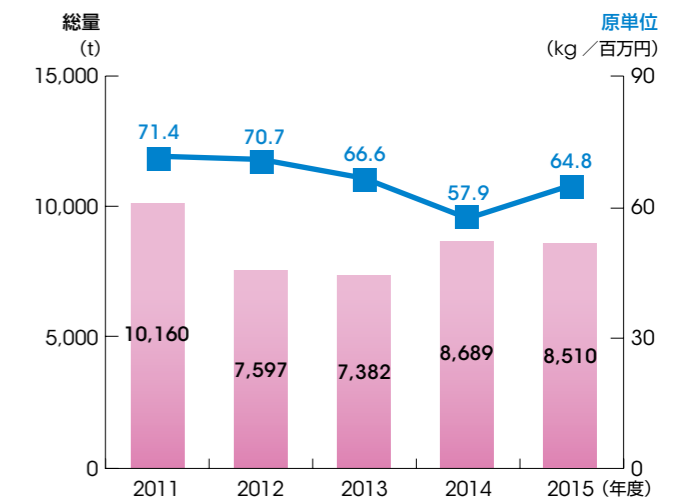


主なOUTPUTの推移

CO₂ 排出量



廃棄物等総排出量



JUKIグループではCO₂排出要因の8割以上を占める電力使用量を削減するため、生産方法や設備稼働時間の見直しをはじめ、様々な取り組みを行っています。

ものづくりの現場では、多くの原材料を使用して日々生産活動を行っています。その過程で排出される廃棄物量を低減すべく、JUKIグループの製造拠点では、廃棄物自体を削減する取り組みや、廃棄物のリユース・リサイクルとして有価取引を推進するなど、様々な取り組みを行っています。

トピックス

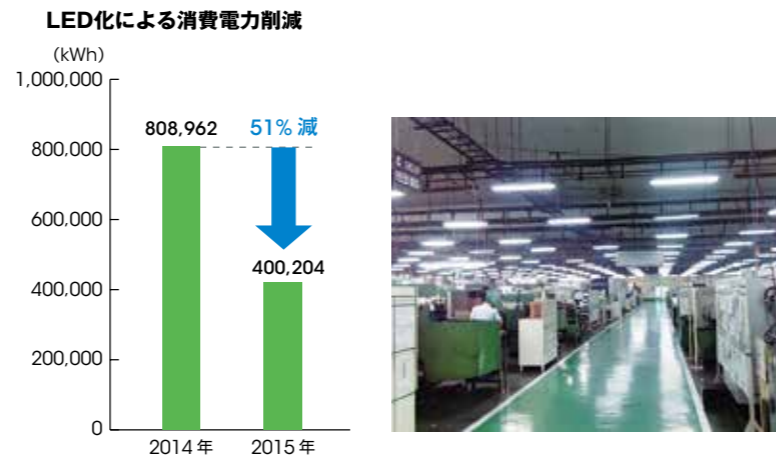
㈱鈴民精密工業所でのカーボンオフセットの取り組み

㈱鈴民精密工業所では、2015年9月、第四銀行が取り組んだ「だいいエコアクション カーボンオフセットプロジェクト」に参加しました。これは、省エネにつながる設備投資である場合、カーボンオフセット付き「省エネ設備応援資金」が利用でき、融資金額1,000万円ごとに温室効果ガス1トンを、新潟県内で創出されたクレジットによりオフセットされるものです。具体的なクレジットとは、新潟県佐渡市「トキの森」整備事業、「苗場山麓 竜神の森」プロジェクト、「南魚沼銘水の森」間伐プロジェクト、「阿賀悠久の森」間伐プロジェクト、「柏崎市ガス水道局における下水処理場へのバイオガス発電機導入プロジェクト」において認定されるCO₂排出削減・吸収量です。本制度を通じてオフセットした温室効果ガスの量は97トンで、杉の木換算で約6,790本分となります。



JUKIベトナム(株)での省エネルギーの取り組み

JUKIベトナム(株)では、2015年度の環境の取り組みとして、工場内蛍光灯のLED化を実施しました。第1工場から第3工場までを対象とした3,820本のLED化により、消費電力は約51%削減され、2014年度に比べ408,758kwhの削減効果をあげました。



JUKI(株)大田原工場での省エネルギーの取り組み

大田原工場では、継続的に省エネルギー化に向けた取り組みを実施しています。その一つに工業用ミシンの低温塗装があります。工業用ミシンは、粉体塗装という塗装を行っていますが、塗料を焼き付けるために最後に乾燥炉内での乾燥（焼き付け）工程があります。乾燥炉内の温度は、従来180℃でしたが、これを160℃で乾燥させることに成功しました。この改善により、乾燥炉の燃料であるLPガスの使用量を26%削減することができました。



2015年の「JUKI ECO PRODUCTS」

JUKIでは製品ライフサイクル全般において、環境に配慮した製品作りを行っています。操作性・メンテナンス性の向上、高い性能の追及、省電力・省エネの同時追求など、開発段階で環境に関する38項目の評価を行います。その結果、特に高いレベルで環境配慮を実現した製品を「JUKI ECO PRODUCTS」として認定しています。



2015年の主な「JUKI ECO PRODUCTS」



高速電子眠り穴かがりミシン
LBH-1790AB (残短仕様)



高速オーバーロック／
インターロックミシン
MO-6800S-30Pシリーズ



家庭用コンピューターミシン
HZL-EX7



2本針4本糸差動送り付き
オーバーロックミシン
MO-114D



高速コンパクトモジュラーマウンタ
RX-6R



高速長尺マウンタ
JX-350

JUKIはどんな会社？

JUKIが目指すもの

JUKIの事業

企業価値創造を支える力

データセクション

役員紹介 (2016年8月1日現在)

取締役



清原 晃
代表取締役社長
兼 JUKIオートメーションシステムズ㈱
代表取締役社長



宮下 尚武
取締役常務執行役員
「事業センター（縫製機器ユニット）担当」
兼 縫製機器ユニットユニットカンパニー長
兼 重機（中国）投資有限公司董事
兼 販売総経理
兼 JUKI SINGAPORE PTE.LTD
取締役会長



和田 稔
取締役常務執行役員
「開発センター担当」
兼 「品質保証部担当」



尾崎 俊彦
社外取締役



長崎 和三
社外取締役



堀 裕
社外取締役

監査役

大竹 義博
常勤監査役

田中 昌利
社外監査役

磯部 康明
社外監査役

常務執行役員

内梨 晋介
後藤 博文
二瓶 勝美

執行役員

本間 君雄
見浦 利正
篠塚 寿信
濱 学洋
Robert J. Black Jr.
小西 浩樹
高橋 喜久雄
浜外 剛重
新田 実
松本 潔
石橋 次郎
鈴木 正彦

JUKIグループのコーポレート・ガバナンス運営体制

コーポレート・ガバナンス体制の充実、コンプライアンスの徹底およびリスクマネジメントの強化に努め、透明性の高い経営を目指します。

コーポレート・ガバナンス

JUKIは、経営の健全性・効率性を確保する観点から、また、ステークホルダーの信頼にお応えするため、コーポレート・ガバナンス体制の適切な維持・運用を最重要課題の一つと位置付け、その整備と充実に努めています。また、適時かつ正確な情報公開を通して、経営の透明性を高めています。JUKIの取締役会は、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定するとともに、業務執行の状況を逐次監督しています。また、執行役員制度を導入し、業務執行の円滑化と責任の明確化をはかっています。2016年3月には、取締役6名の内、社外取締役を2名から3名に増員することで、取締役および取締役会の経営監視機能をさらに高めるとともに、社外からの意見を経営に積極的に取り入れる体制を強化しています。また、取締役会の下に経営戦略会議を組織し、当社およびグループ会社からなる企業集団に関して、取締役をはじめ担当執行役員や担当部門責任者も出席し、経営に関する基本方針や戦略などについて様々な角度から審議することで、より適切な意思決定および業務の執行が可能となる体制をとっています。リスク管理体制としては、リスク管理会議、危機対応タスクフォースを設置しています。内部監査の組織としては、監査部を設置し、当社各部門およびグループ会社に対する業務監査を行っています。また監査役監査は、監査役会が定めた監査方針や業務分担などに従い、監査部および会計監査人と相互連携を取りながら実施しています。監査役を補佐する組織としては、監査役室を設置しています。

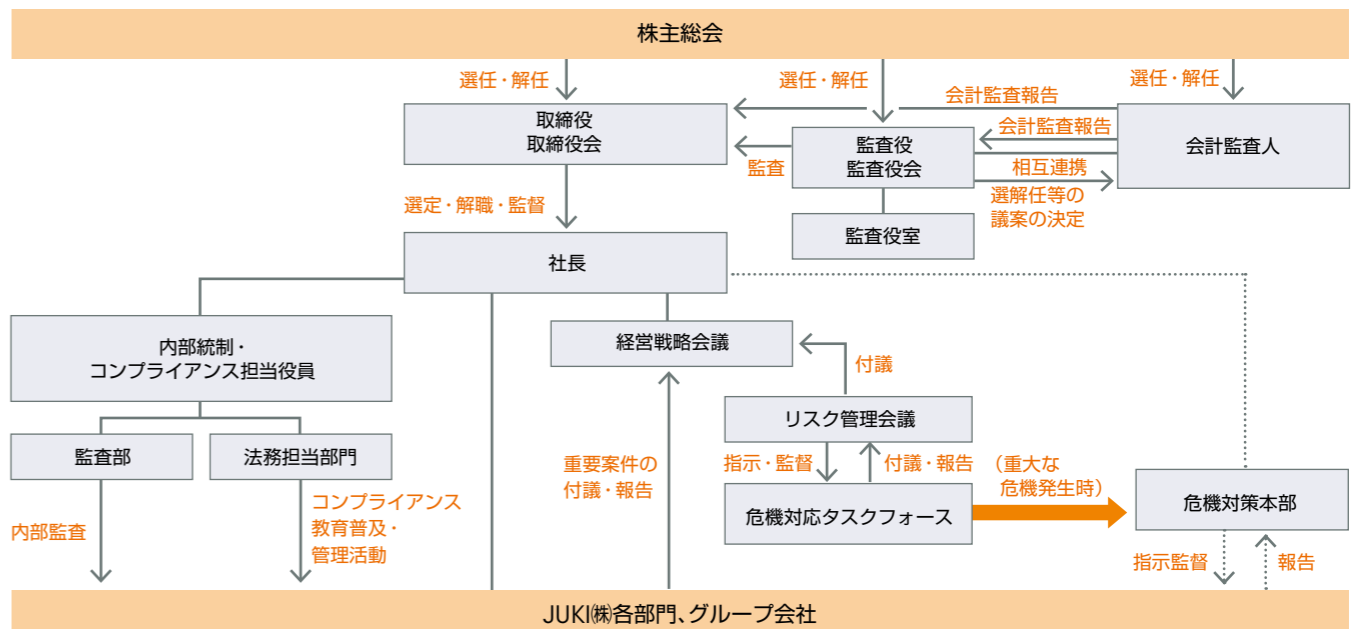
コンプライアンス

JUKIグループは、お客様をはじめとして広く社会の皆様から信頼され、社会にとって存在価値のある企業グループであり続けることを目指して、コンプライアンスを重要な経営基盤と位置づけています。JUKIの従業員はもちろんのこと、グループ会社の役員および従業員は、法令順守や良識を持った行動などについて解説されている「JUKIグループ社員行動規範「10カ条」」に則って行動するよう、徹底しています。従業員からの相談・疑問などに対しては、JUKIおよびグループ会社に相談窓口を設置して迅速に対応しています。また、コンプライアンスに関わる重要なリスクについては、リスク管理会議において管理しています。

リスクマネジメント

JUKIグループではリスク管理体制として、リスク管理会議を設置しています。リスク管理会議では、全社的リスクおよび重要リスクを管理し、必要な場合はリスク低減のための改善対策を取ることを指示しています。また、天災、火災や爆発、PL（製造物責任）に関わる問題、工場廃水による環境問題などの危機の発生（リスクの顕在化）に備え、危機対応タスクフォースを設置し、対応措置を検討、実行できる体制を整備しています。また、重大な危機が発生した場合には「危機対策本部」を設置し、迅速な危機対応を行います。

コーポレート・ガバナンス体制図



3年間の主要財務・非財務データ（連結）

(単位：百万円)

	2013年度 2013年12月期	2014年度 2014年12月期	2015年度 2015年12月期
損益状況（会計年度）			
売上高	94,385	107,581	112,865
（海外売上高比率）	(83.8%)	(84.1%)	(85.6%)
売上総利益	26,291	33,503	34,571
営業利益	5,151	8,217	7,110
経常利益	3,878	7,710	5,728
当期純利益	3,006	6,058	3,853
設備投資額	1,062	1,964	1,252
減価償却費	2,940	3,115	2,990
研究開発費	3,859	4,826	4,871
財政状態（事業年度末）			
総資産	113,189	130,751	119,281
純資産	11,806	25,010	28,477
自己資本	11,432	23,994	27,678
財務指標			
自己資本比率	10.1%	18.4%	23.2%
自己資本当期純利益率（ROE）	37.4%	34.2%	14.6%
キャッシュ・フロー状況（会計年度）			
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,405	3,459	8,924
投資活動によるキャッシュ・フロー	293	△1,868	△1,218
フリーキャッシュ・フロー	6,698	1,590	7,705
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,445	837	△9,044
1株当たり情報（※2015年7月1日実施の株式併合後の基準で表記）			
1株当たり当期純利益（EPS）	116.35円	219.17円	129.14円
1株当たり配当金（DPS）	—	20円	35円
1株当たり純資産額（BPS）	442.38円	804.10円	927.63円
非財務データ			
従業員数	5,872人	6,153人	6,245人
海外従業員比率	58.8%	59.1%	59.9%

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2014年度 2014年12月期	2015年度 2015年12月期
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,491	7,906
受取手形及び売掛金	31,275	31,263
商品及び製品	37,685	31,689
仕掛品	4,230	3,532
原材料及び貯蔵品	8,332	7,424
繰延税金資産	3,050	2,595
その他	4,303	2,945
貸倒引当金	△579	△400
流動資産合計	97,789	86,958
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,625	13,844
機械装置及び運搬具（純額）	3,324	3,036
工具、器具及び備品（純額）	1,116	1,047
土地	6,774	6,656
リース資産（純額）	428	342
建設仮勘定	35	97
有形固定資産合計	26,304	25,024
無形固定資産		
無形固定資産	2,216	1,797
投資その他の資産		
投資有価証券	3,051	3,009
長期貸付金	448	432
長期前払費用	473	353
繰延税金資産	124	202
退職給付に係る資産	—	982
その他	1,841	2,316
貸倒引当金	△1,500	△1,795
投資その他の資産合計	4,440	5,501
固定資産合計	32,961	32,323
資産合計	130,751	119,281

(単位：百万円)

	2014年度 2014年12月期	2015年度 2015年12月期
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,892	10,126
短期借入金	52,492	46,870
リース債務	207	123
未払金	1,906	1,718
未払費用	3,343	3,473
未払法人税等	913	745
賞与引当金	69	60
設備関係支払手形	120	111
為替予約	2,800	—
その他	1,354	1,205
流動負債合計	77,101	64,436
固定負債		
長期借入金	21,751	20,101
リース債務	297	281
役員退職慰労引当金	171	171
退職給付に係る負債	5,270	5,084
その他	1,148	728
固定負債合計	28,639	26,367
負債合計	105,741	90,803
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,044	18,044
資本剰余金	2,094	2,094
利益剰余金	3,754	7,800
自己株式	△62	△66
株主資本合計	23,831	27,873
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	817	817
繰延ヘッジ損益	△3	—
為替換算調整勘定	△695	△1,148
退職給付に係る調整累計額	44	136
その他の包括利益累計額合計	163	△194
少数株主持分	1,015	799
純資産合計	25,010	28,477
負債純資産合計	130,751	119,281

連結損益計算書

(単位：百万円)

	2014年度 2014年12月期	2015年度 2015年12月期
売上高	107,581	112,865
売上原価	74,078	78,293
売上総利益	33,503	34,571
販売費及び一般管理費	25,285	27,461
営業利益	8,217	7,110
営業外収益		
受取利息	160	127
受取配当金	102	147
受取手数料	163	193
為替差益	259	—
その他	383	445
営業外収益合計	1,069	914
営業外費用		
支払利息	1,410	1,321
為替差損	—	819
その他	166	155
営業外費用合計	1,576	2,296
経常利益	7,710	5,728
特別利益		
固定資産売却益	21	50
その他	3	0
特別利益合計	24	51
特別損失		
固定資産除売却損	82	65
投資有価証券評価損	—	34
減損損失	59	32
持分変動損失	5	—
その他	—	4
特別損失合計	147	137
税金等調整前当期純利益	7,587	5,642
法人税、住民税及び事業税	1,416	1,625
過年度法人税等	486	—
法人税等調整額	△ 274	364
法人税等合計	1,628	1,989
少数株主損益調整前当期純利益	5,958	3,652
少数株主損失(△)	△ 100	△ 200
当期純利益	6,058	3,853

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2014年度 2014年12月期	2015年度 2015年12月期
少数株主損益調整前当期純利益	5,958	3,652
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	186	0
繰延ヘッジ損益	20	3
為替換算調整勘定	2,100	△ 471
退職給付に係る調整額	—	88
その他の包括利益合計	2,307	△ 379
包括利益	8,266	3,273
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	8,331	3,495
少数株主に係る包括利益	△ 64	△ 221

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2014年度 2014年12月期	2015年度 2015年12月期
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	7,587	5,642
減価償却費	3,115	2,990
減損損失	59	32
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△ 523	137
賞与引当金の増減額(△は減少)	12	△ 7
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△ 5,217	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	5,410	163
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	—	△ 62
受取利息及び受取配当金	△ 262	△ 275
支払利息	1,410	1,321
為替差損益(△は益)	1,010	259
有形及び無形固定資産除売却損益(△は益)	61	15
投資有価証券評価損益(△は益)	—	34
売上債権の増減額(△は増加)	△ 3,785	△ 704
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 1,770	6,631
仕入債務の増減額(△は減少)	1,519	△ 3,605
割引手形の増減額(△は減少)	△ 49	117
その他	△ 1,982	△ 871
小計	6,594	11,820
利息及び配当金の受取額	262	274
利息の支払額	△ 1,421	△ 1,331
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△ 1,976	△ 1,838
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,459	8,924
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 1,727	△ 1,402
有形及び無形固定資産の売却による収入	39	205
投資有価証券の取得による支出	△ 0	△ 0
投資有価証券の売却による収入	4	—
貸付けによる支出	△ 5	△ 8
貸付金の回収による収入	24	21
その他	△ 203	△ 34
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,868	△ 1,218
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△ 3,206	△ 3,866
長期借入れによる収入	13,552	9,924
長期借入金の返済による支出	△ 13,323	△ 13,210
社債の償還による支出	△ 10	—
新株予約権の発行による収入	14	—
新株予約権の行使による株式の発行による収入	4,174	—
配当金の支払額	△ 0	△ 889
セールアンド割賦バック取引による収入	674	57
セールアンド割賦バック債務返済による支出	△ 564	△ 638
その他	△ 474	△ 422
財務活動によるキャッシュ・フロー	837	△ 9,044
現金及び現金同等物に係る換算差額	617	△ 275
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,045	△ 1,613
現金及び現金同等物の期首残高	6,239	9,285
現金及び現金同等物の期末残高	9,285	7,671

1938

1940

1950

1960

1970

1980

1990

2000

2010

2015

1938.12

東京都の機械業者約900名が出資し、「東京重機製造工業組合」として発足

1943. 9

株式会社に改組し、「東京重機工業株式会社」と改称

1947. 4

家庭用ミシン発売開始
戦後のJUKI再生事業として「ミシン」を選択しました。家庭用ミシン1号機の「HA-1」は約70%の部品を自製し、品質・性能に優れていたため、審査会において最高位の通産大臣賞を受賞しました。



1953. 3

工業用ミシン発売開始
家庭用ミシンの販売開始から6年後、新たに販売を開始した工業用ミシン「DDW-II」は恩賜発明賞を受賞し、「技術のJUKI」の歴史が始まりました。



1957. 4

単軸回転天秤の発明が恩賜発明賞を受賞

1961.10

東京証券取引所第二部上場

1963. 7

株式会社ジューキ広島製作所（現 JUKI広島株式会社）を設立

1964. 8

東京証券取引所ならびに大阪証券取引所第一部上場

1966. 7

株式会社中島製作所（現 JUKI松江株式会社）をグループ化

1969. 1

株式会社鈴形精密工業所をグループ化

1969. 2

世界初、安定した「自動糸切り」を実現したミシンを開発

各社が開発を競う夢の技術「自動糸切り」機能を、世界で初めて安定した品質で製品に搭載したDDL-555-2型を発売。JUKIはこれをきっかけに業界で認められ、苦戦していた海外での販売に弾みがつき、世界シェアトップ企業への足がかりを作りました。



1969. 9

三瀬谷工業株式会社（現 JUKI金属株式会社）を設立

1970. 7

JUKI (HONG KONG) LTD.を設立
工業用ミシン事業への参入から3年後の1956年より輸出を開始し、その2年後には香港に技術者を駐在させ、1970年に初の販売会社を香港に設立しました。続いて1972年にヨーロッパ（ドイツ）、1974年にアメリカに販売会社を設立し、よりお客様に近いところでのサービス体制を整えました。



1971. 4

大田原工場竣工
工業用ミシンの生産が拡大し、本社工場（当時）だけでは限界となったため、一貫生産の工場を建設。行政の誘致や周辺の協力工場などの諸条件が合致した大田原市に工場を建設しました。現在、国内外14工場が稼働していますが、大田原工場はマザー工場として重要な役割を担っています。



1972. 4

JUKI (EUROPE) GMBHを設立

1973. 4

会津精密株式会社（現 JUKI会津株式会社）を設立

1973. 9

ジューキ電子工業株式会社（現 JUKI電子工業株式会社）を設立

1973.11

株式会社吉野製作所（現 JUKI吉野工業株式会社）を設立

1973.11

秋田精密株式会社（現 JUKI秋田精密株式会社）を設立

1974. 3

JUKI AMERICA, INC.を設立

1981.10

工業用ミシン本部がデミング賞を受賞（実施賞事業部賞）
製品のみならずサービスを含めたあらゆる仕事の質を向上させるための取り組みとしてTQC経営を導入。統計的手法を駆使する管理を徹底するため指導・教育を繰り返し、導入から5年後、厳しい審査の末、デミング賞を受賞しました。この取り組みは、生産・販売などのあらゆる活動に活かされています。



1987. 7

チップマウント発売開始
コンピュータや電化製品などあらゆる製品基板の生産が「表面実装」に変化する中、工業用ミシンと電子機器の開発・生産で培ったメカトロニクスの技術を基にチップマウントを開発し、産業装置事業に参入。大型高速機が主流だった業界に「モジュラーコンセプト」の概念を提唱し新風を巻き起こしました。



1988. 4

JUKI株式会社に社名変更
重機械メーカー的なイメージから脱皮し、製品ブランドとしてすでに認知されていた「JUKI」と一致させ、さらなるグローバル化をはかるため「東京重機工業株式会社」から社名を変更。「JUKIロゴタイプ」を刷新し、コーポレートスローガン「Mind & Technology」を制定しました。



1990. 6

上海重機ミシン有限公司を設立

1994.11

東京重機国際貿易（上海）有限公司を設立

1995. 1

TAN THUAN PRECISION CO., LTD.（現 JUKI (VIETNAM) CO., LTD.）を設立
部品の原価低減活動を目的にJUKIおよびJUKIグループ8社が合同で出資し部品製造会社を設立。当時、ベトナムへの工場進出は珍しく、日系企業としてはJUKIが初めてとなりました。現在は部品製造のほか、工業用ミシンの開発や生産も担う、東南アジアの販売を支える重要な生産会社になりました。



1995. 3

JUKI SINGAPORE PTE. LTD.を設立

1995. 9

新興重機工業有限公司を設立
新興重機工業（中国）の国営企業と合併で設立。マザー工場である「大田原工場」の全面協力の下、日本製と変わらないJUKI品質の製品を生み出す工場へ。同年11月には「重機（寧波）精密機械株式会社」を設立し、その後2000年に2つ目の生産工場となる重機（上海）工業（中国）を設立しました。



1995.11

重機（寧波）服装設備工業有限公司（現 重機（寧波）精密機械有限公司）を設立

1997.12

世界初の機構「下糸自動供給装置」（工業用ミシン）が機械振興協会賞を受賞

1999.10

JUKI販売株式会社を設立

2000.10

重機（上海）工業有限公司を設立

2000.10

JUKI MACHINERY (INDIA) PVT.LTD.（現 JUKI INDIA PVT.LTD.）を設立

2001. 1

重機（中国）投資有限公司を設立

2001. 10

JUKI AUTOMATION SYSTEMS INC.をグループ化

2005. 7

JUKI CENTRAL EUROPE SP.ZO.Oを設立

2006.10

JUKI SMT ASIA CO., LTD.を設立

2009.12

本社および研究開発機能を東京都多摩市の新社屋へ移転
創業の地「調布市国領町」から、企業誘致により「多摩市鶴牧」に建設した新社屋へ本社・研究開発機能を移転。新社屋は地上8階、地下2階の建物に、音や振動、耐久性などの検査設備を備え、さらなる仕事の効率化や製品品質の向上が可能になりました。



2011. 7

JUKI MACHINERY BANGLADESH LTD.を設立

2012. 5

JUKI MACHINERY VIETNAM CO.,LTD.を設立

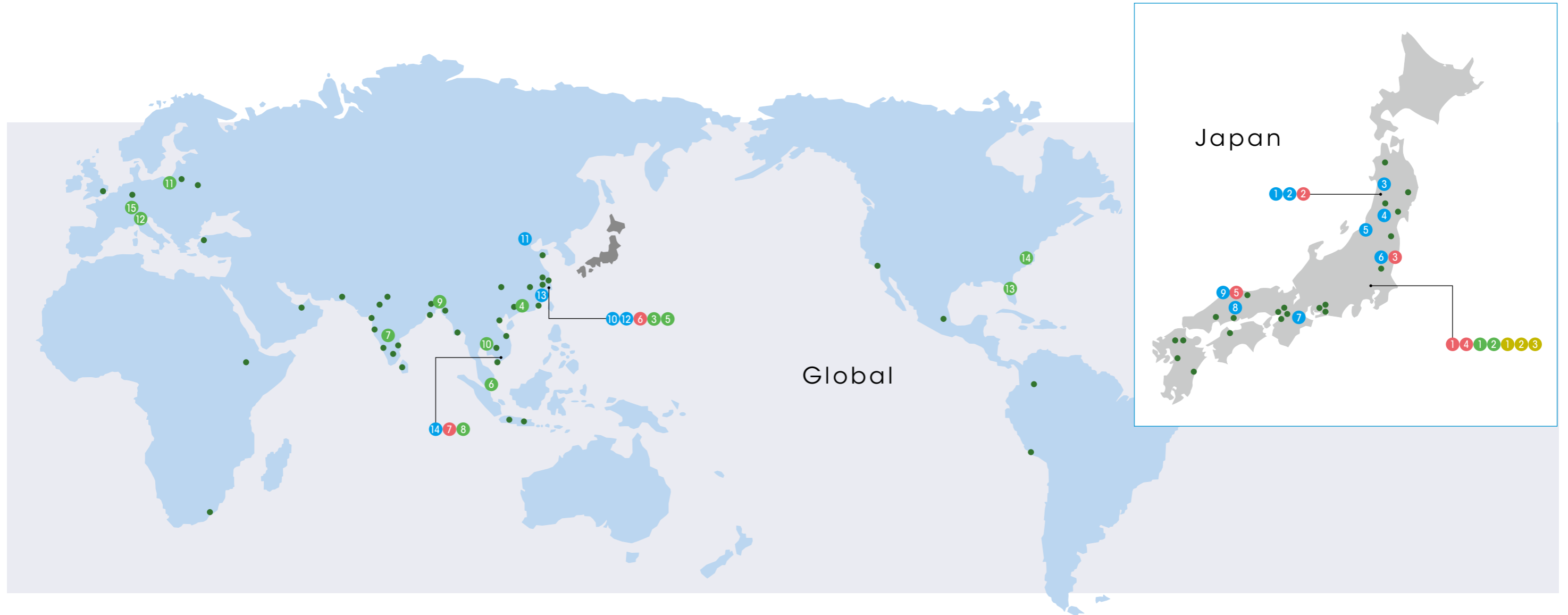
2013. 8

JUKIオートメーションシステムズ株式会社を設立

2014. 3

JUKIオートメーションシステムズ株式会社とソニーイーエムシーエス株式の実装機器事業部門を統合
JUKI産業装置事業を担うJUKIオートメーションシステムズ株式会社とソニーイーエムシーエス株式の実装機器の事業部門を統合しました。これによりJUKIが得意とする汎用機とソニーが持つ高速機・印刷機・検査機を組み合わせた製品が拡充し、ラインソリューション提案が可能になりました。





製造拠点

国内		
1 JUKI 電子工業株式会社	秋田県横手市	チップマウンタ等の製造、電子機器等の製造
2 JUKI 吉野工業株式会社	秋田県横手市	精密機械器具部品の製造
3 JUKI 秋田精密株式会社	秋田県大仙市	板金・プレス加工部品の製造
4 JUKI 会津株式会社	福島県喜多方市	ロストワックス・MIM 製法部品の製造
5 株式会社鈴木精密工業所	新潟県長岡市	工業用マシン等の部品製造
6 JUKI 株式会社大田原工場	栃木県大田原市	工業用マシンの製造
7 JUKI 金属株式会社	三重県大台町	鋳鉄鋳物等の製造
8 JUKI 広島株式会社	広島県三次市	金型・プレス加工部品等の製造
9 JUKI 松江株式会社	島根県松江市	工業用マシン等の製造
海外		
10 重機(上海)工業有限	中国・上海	工業用マシン等の製造
11 新興重機工業有限	中国・河北省	工業用マシン等の製造
12 上海重機マシン有限	中国・上海	家庭用マシン等の製造
13 重機(寧波)精密機械有限	中国・浙江省	工業用マシン部品等の製造
14 JUKI ベトナム株式会社	ベトナム・ホーチミン	工業用マシン等の製造、ロストワックス部品の製造

開発拠点

国内		
1 JUKI 株式会社	東京都多摩市	工業用マシン、家庭用マシン、チップマウンタ等の開発
2 JUKI 電子工業株式会社	秋田県横手市	チップマウンタ等、電子機器等の開発、グループ事業関連の開発
3 JUKI 株式会社大田原工場	栃木県大田原市	工業用マシンの開発
4 JUKI オートメーションシステムズ株式会社	東京都多摩市	チップマウンタ等の開発
5 JUKI 松江株式会社	島根県松江市	工業用マシンの開発
海外		
6 重機(上海)工業有限	中国・上海	工業用マシンの開発
7 JUKI ベトナム株式会社	ベトナム・ホーチミン	工業用マシンの開発

販売拠点

国内		
1 JUKI オートメーションシステムズ株式会社	東京都多摩市	チップマウンタ等の販売
2 JUKI 販売株式会社	東京都多摩市	工業用マシン、家庭用マシン等の販売
● 支店/営業所/サービスセンター 等		
海外		
3 重機(中国)投資有限	中国・上海 持株会社・中国拠点統括	工業用マシン、家庭用マシン等の販売
4 JUKI 香港株式会社	中国・香港	工業用マシン等の販売
5 東京重機国際貿易(上海)有限	中国・上海	チップマウンタ等の販売
6 JUKI シンガポール株式会社	シンガポール・サイバーハブ	工業用マシン、家庭用マシン等の販売
7 JUKI インディア株式会社	インド・バンガロール	工業用マシン、チップマウンタ等の販売
8 JUKI マシナリーベトナム株式会社	ベトナム・ホーチミン	工業用マシン、家庭用マシン等の販売
9 JUKI マシナリーバングラデシュ株式会社	バングラデシュ・ダッカ	工業用マシン等の販売
10 JUKI SMT アジア株式会社	タイ・チョンブリ	チップマウンタ等の販売
11 JUKI セントラルヨーロッパ株式会社	ポーランド・ワルシャワ	工業用マシン、家庭用マシン等の販売
12 JUKI イタリア株式会社	イタリア・ミラノ	工業用マシン、家庭用マシン等の販売
13 JUKI アメリカ株式会社	アメリカ・フロリダ	工業用マシン、家庭用マシン等の販売
14 JUKI オートメーションシステムズINC	アメリカ・ノースカロライナ	チップマウンタ等の販売
15 JUKI オートメーションシステムズAG	スイス・ソロトゥルン	チップマウンタ等の販売
● 支店/駐在員事務所/サービスセンター 等		

その他拠点

1 JUKI 家庭製品お客様センター株式会社	東京都多摩市	家庭用マシンのサービス対応
2 JUKI リビングクラブ株式会社	東京都多摩市	友の会の管理
3 JUKI ゼネラルサービス株式会社	東京都多摩市	ビル管理・リフォーム・印刷他サービス

会社概要

商号	JUKI株式会社		
創立	1938年12月15日		
資本金	180億4,471万円		
主要事業所	本社	〒206-8551 東京都多摩市鶴牧2-11-1	Tel : 042-357-2211
	大田原工場	〒324-0011 栃木県大田原市北金丸1863	Tel : 0287-23-5111
決算期	12月31日		
定時株主総会	3月		
従業員	6,245名(連結)、807名(単体)		
連結子会社	31社		

株式情報

株式数	発行済株式総数 29,874,179株
株主数	15,741名
上場証券取引所	東京証券取引所 第一部 (貸借銘柄)
	証券コード6440
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社

過去5年間の株価推移のグラフ



2015年7月1日効力発生の株式併合後の株価

Mind&Technology



JUKI株式会社 総務部

〒206-8551 東京都多摩市鶴牧 2-11-1 TEL 042-357-2398

<http://www.juki.co.jp/>

